全国道路施設点検データベース（道路橋）

サンプルデータ集

１．橋梁リスト（77 条調査）　項目リスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
２．点検表記録様式　様式例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11
３．橋梁管理カルテ　様式例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15
４．橋梁定期点検　様式例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　23
５．道路管理データ（MICHI）　様式例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　50

対象	データ項目	サンプル データ
全道路管理者の 約 73 万橋	詳細データ約 200 項目： 構造諸元（代表値）、点検結果、耐震補強状況等	１．２．
国交省管理の 約 3.8 万橋	詳細データ計約 1,400 項目： 上記に加え構造諸元（構造体毎）、構造･材料種別点検結果（要素･部材単位を含む）、点検･補強履歴等	３．４．５．

１．橋梁リスト（77 条調査）　項目リスト

	項目名		備考
	施設 ID		
	施設区分		1:道路橋
	更新日時		ISO8601 に準拠した日本時間
管理用データ	年度		
	作業用施設番号		
	管理者コード		
	基礎年度		
作業フラグ	作業内容フラグ_区分		
	作業内容フラグ_内訳		
	作業内容フラグ_内訳補足		
諸元	橋梁形式		
	施設名	施設名	
		フリガナ	
	路線	路線名	
		道路種別	1:高速自動車国道　2:一般国道(指定区間)　3:一般国道(指定区間外)　4:都道府県道　5:市町村道
	架設年次	架設年度	西暦４桁
		推測架設年度	1:1900 年以前　2:1901～1910 年　3:1911～1920 年　4:1921～1930 年 5:1931～1940 年　6:1941～1950 年　7:1951～1960 年　8:1961～1970 年 9:1971～1980 年　10:1981～1990 年　11:1991～2000 年　12:2001～2010 年 13:2011～
	供用年度		西暦４桁
	橋梁種別		1:橋　2:高架橋　3:桟道橋
	橋長(m)		
	径間数		
	幅員(m)		

諸元	構造形式		上部構造形式	
			上部構造形式(材料)	
			上部構造形式(構造)	
			下部構造形式	
			基礎形式	
			溝橋(カルバート)	1:○溝橋　2:●特定溝橋
	管理者		区分	1:国　2:都道府県　3:道路公社　4:政令市　5:市区町村　6:高速道路会社
			管理者名	
			管理事務所名	
	行政区域		都道府県コード	
			都道府県名	
			市区町村名コード	
			市区町村名	
	起点側の位置		緯度	
			経度	
			KP	
	上下線区別			1:上下線　2:上り線　3:下り線
	緊急輸送道路種別			1:一次　2:二次　3:三次　4:市町村指定　8:指定なし
	路下状況	道路	緊急輸送道路の有無	1:一次　2:二次　3:三次　4:市町村指定　8:指定なし　9:×
			道路橋下の管理者	1:国　2:都道府県　3:道路公社　4:政令市　5:市町村　6:高速道路会社　8:その他
		鉄道		1:新幹線　2:その他鉄道　9:無し
	代替路の有無			1:有　2:無
	自専道または一般道			1:自専道　2:一般道
	高規格幹線道路区分			0:該当しない　1:A　2:A'　3:B
	占用物件（名称）			
	備考			
老朽化対策	点検年度			西暦４桁
	点検記録		点検実施年月	
			判定区分	1:Ⅰ　2:Ⅱ　3:Ⅲ　4:Ⅳ　8:未点検　9:点検対象外
			点検記録簿様式ファイル名	
			所見等(任意)	
	長寿命化修繕計画			長寿命化修繕計画に位置づけられている場合は、1:○
	備考			

<table>
<tr><td rowspan="19">老朽化対策
（跨線橋）</td><td rowspan="14">確認書に
記載あり</td><td rowspan="14">点検・修繕計画
（現５箇年）

(計画年度)</td><td>2014</td><td colspan="5" rowspan="14">1:●点検済　2:▲修繕済　3:■修繕中・協議済
4:○点検予定　5:△修繕予定　6:□協議開始予定</td></tr>
<tr><td>2015</td></tr>
<tr><td>2016</td></tr>
<tr><td>2017</td></tr>
<tr><td>2018</td></tr>
<tr><td>2019</td></tr>
<tr><td>2020</td></tr>
<tr><td>2021</td></tr>
<tr><td>2022</td></tr>
<tr><td>2023</td></tr>
<tr><td>2024</td></tr>
<tr><td>2025</td></tr>
<tr><td>2026</td></tr>
<tr><td>2027</td></tr>
<tr><td>2028</td></tr>
<tr><td>点検方法</td><td colspan="6">鉄道事業者へ委託の場合、「1」を記入</td></tr>
<tr><td>修繕方法</td><td colspan="6">鉄道事業者へ委託の場合、「1」を記入</td></tr>
<tr><td>点検済分類</td><td colspan="6">1:跨線部のみ　2:跨線部以外　3:全体</td></tr>
<tr><td>跨線部判定結果</td><td colspan="6">1:Ⅰ　2:Ⅱ　3:Ⅲ　4:Ⅳ</td></tr>
<tr><td>修繕済分類</td><td colspan="6">1:跨線部のみ　2:跨線部以外　3:全体</td></tr>
<tr><td>跨線部再判定結果</td><td colspan="6">1:Ⅰ　2:Ⅱ　3:Ⅲ　4:Ⅳ</td></tr>
<tr><td colspan="2">確認書に点検時期の記載なし</td><td>記載されていない理由</td><td colspan="5">1:協議中　2:撤去予定　3:その他</td></tr>
<tr><td rowspan="4">鉄道</td><td>ＪＲ</td><td colspan="5">北海道旅客鉄道　北海道旅客鉄道（うち新幹線）　東日本旅客鉄道　東日本旅客鉄道（うち新幹線）
東海旅客鉄道　東海旅客鉄道（うち新幹線）　西日本旅客鉄道　西日本旅客鉄道（うち新幹線）
四国旅客鉄道　九州旅客鉄道　九州旅客鉄道（うち新幹線）　日本貨物鉄道</td></tr>
<tr><td>大手民鉄</td><td colspan="5">東武鉄道　西武鉄道　京成電鉄　京王電鉄　小田急電鉄　東京急行電鉄
京浜急行電鉄　東京地下鉄　相模鉄道　名古屋鉄道　近畿日本鉄道　南海電気鉄道
京阪電気鉄道　阪急電鉄　阪神電気鉄道　西日本鉄道</td></tr>
<tr><td>準大手</td><td colspan="5">新京成電鉄　北大阪急行電鉄　泉北高速鉄道　神戸高速鉄道　山陽電気鉄道</td></tr>
<tr><td>公営</td><td colspan="5">仙台市　東京都　横浜市　名古屋市　京都市　神戸市　福岡市　大阪市高速電気軌道</td></tr>
</table>

老朽化対策 （跨線橋）	鉄道	中小民鉄	津軽鉄道	弘南鉄道	仙台空港鉄道	福島交通	長野電鉄	上田電鉄
			アルピコ交通	富山ライトレール	黒部峡谷鉄道	富山地方鉄道	北陸鉄道	関東鉄道
			ひたちなか海浜鉄道	上毛電気鉄道	上信電鉄	秩父鉄道	銚子電気鉄道	小湊鉄道
			流鉄	北総鉄道	千葉ニュータウン鉄道	芝山鉄道	東葉高速鉄道	成田空港高速鉄道
			埼玉高速鉄道	首都圏新都市鉄道	東京臨海高速鉄道	江ノ島電鉄	箱根登山鉄道	伊豆箱根鉄道
			横浜高速鉄道	富士急行	伊豆急行	岳南鉄道	静岡鉄道	大井川鐵道
			遠州鉄道	豊橋鉄道	名古屋臨海高速鉄道		中部国際空港連絡鉄道	
			上飯田連絡線	東海交通事業	三岐鉄道	伊賀鉄道	養老鉄道	福井鉄道
			えちぜん鉄道	近江鉄道	嵯峨野観光鉄道	叡山電鉄	新関西国際空港	大阪外環状鉄道
			大阪港ﾄﾗﾝｽﾎﾟｰﾄｼｽﾃﾑ		関西高速鉄道	奈良生駒高速鉄道	水間鉄道	中之島高速鉄道
			西大阪高速鉄道	能勢電鉄	和歌山電鐵	和歌山県	紀州鉄道	一畑電車
			高松琴平電気鉄道	北神急行電鉄	神戸電鉄	水島臨海鉄道	島原鉄道	伊予鉄道
			筑豊電気鉄道	成田高速鉄道アクセス		熊本電気鉄道	万葉線	広島電鉄
			四日市あすなろう鉄道		四日市市	伊賀市	養老線管理	
		中小民鉄 (転換鉄道等)	青森県	青い森鉄道	アイジーアールいわて銀河鉄道		三陸鉄道	由利高原鉄道
			秋田内陸縦貫鉄道	山形鉄道	阿武隈急行	会津鉄道	北越急行	しなの鉄道
			あいの風とやま鉄道	のと鉄道	えちごﾄｷめき鉄道	アイアール石川鉄道	鹿島臨海鉄道	真岡鐵道
			野岩鉄道	わたらせ渓谷鐵道	いすみ鉄道	天竜浜名湖鉄道	愛知環状鉄道	伊勢鉄道
			樽見鉄道	明知鉄道	長良川鉄道	信楽高原鐵道	北近畿タンゴ鉄道	北条鉄道
			井原鉄道	錦川鉄道	智頭急行	若桜鉄道	若桜町	八頭町
			甘木鉄道	平成筑豊鉄道	松浦鉄道	肥薩おれんじ鉄道	南阿蘇鉄道	くま川鉄道
			北九州市	土佐くろしお鉄道	阿佐海岸鉄道	道南いさりび鉄道	甲賀市	WILLER TRAINS
		貨物鉄道 (JR 貨物除き)	太平洋石炭販売輸送	八戸臨海鉄道	岩手開発鉄道	仙台臨海鉄道	秋田臨海鉄道	福島臨海鉄道
			京葉臨海鉄道	神奈川臨海鉄道	名古屋臨海鉄道	衣浦臨海鉄道	西濃鉄道	
		モノレール	湘南モノレール	舞浜リゾートライン	東京モノレール			
		新交通システム	東京都	札幌市	埼玉新都市交通	山万	ゆりかもめ	西武鉄道
			大阪市高速電気軌道		大阪港ﾄﾗﾝｽﾎﾟｰﾄｼｽﾃﾑ	神戸新交通	広島高速交通	
		鋼索鉄道	（財）青函トンネル記念館		立山黒部貫光	筑波観光鉄道	高尾登山鉄道	御岳登山鉄道
			大山観光電鉄	比叡山鉄道	鞍馬寺	丹後海陸交通	六甲山観光	四国ケーブル
			一般財団法人神戸すいまち		皿倉登山鉄道	ラクテンチ	箱根登山鉄道	伊豆箱根鉄道
			京福電気鉄道	京阪電気鉄道	近畿日本鉄道	南海電気鉄道	能勢電鉄	北九州市
		無軌条電車	関西電力	立山黒部貫光				

老朽化対策（跨線橋）	軌道	公営	函館市	大阪市高速電気軌道		熊本市	鹿児島市	札幌市
			東京都					
		中小民鉄	万葉線	京福電気鉄道	阪堺電気軌道	岡山電気軌道	広島電鉄	とさでん交通
			長崎電気軌道	富山地方鉄道	富山ライトレール	豊橋鉄道	福井鉄道	伊予鉄道
			富山市					
		モノレール	千葉都市モノレール	スカイレールサービス	多摩都市モノレール	大阪高速鉄道	北九州高速鉄道	沖縄都市モノレール
		新交通システム	横浜シーサイドライン	名古屋ガイドウェイバス	神戸新交通	広島高速交通	愛知高速交通	東京都
			ゆりかもめ	大阪市高速電気軌道		宇都宮ライトレール	宇都宮市	芳賀町
	その他	鉄軌道事業者コードにない鉄道						

通行規制	規制内容		1:全面通行止　2:車両通行止め（歩行者通行可）　3:車両通行制限あり（歩行者通行可） 4:上記以外の規制あり　5:規制なし
	規制内容詳細		・重量　・高さ　・車幅　等の制限内容を記載
	新規追加		
	規制内容変更		
	規制開始年度		
	規制までの橋齢		
	規制解除（予定）年度		
	規制原因		
	原因コード		1:設計条件　2:構造条件　3:大型交通増加　4:劣化損傷（老朽化）　5:災害　6:その他
	具体的内容	分類	1:桁等の主部材　2:床版　3:橋台・橋脚　4:設計の陳腐化　5:その他
		詳細内容	
	補修等実施状況	補修等実施状況	1:補修事業予定、中、完了　2:架替事業予定、中、完了　3:撤去事業予定、中、完了 4:廃止予定、廃止完了　5:措置未定
		実施予定時期	「決定」or「未定」
		実施予定時期が「決定」の場合の実施予定年月	実施予定年月
		措置方針が「撤去」の場合	1:単純撤去　2:集約撤去

耐震補強	新設設計時の適用基準			1:S46 耐震設計指針より前　2:S46 耐震設計指針　3:S55 道示 4:H2 道示　5:H8 道示（復旧仕様含む）　6:H14 道示 7:H24 道示　8:H29 道示　9:不明
	橋の重要度			A. A 種の橋:地震による損傷が橋として致命的とならない性能 B. B 種の橋:地震による損傷が限定的に留まり、橋としての機能の回復が速やかに行い得る性能
	耐震補強の状況	状況		1:性能 2 を満足　2: 性能 3 を満足、性能 2 を満足していない　3:性能 3 を満たしていない
		性能 3 を満たしていない場合	性能 3 を満たすための対策状況	1:未着手　2:設計中　3:工事中
			対策完了目標年度	対策完了目標
		性能 3 を満足、性能 2 を満足していない場合	性能 2 を満たすための対策状況	1:未着手　2:設計中　3:工事中
			対策完了目標年度	対策完了目標
	橋種_一般橋			
	橋種_特殊橋_トラス橋			
	橋種_特殊橋_吊り橋			
	橋種_特殊橋_斜張橋			
	橋種_特殊橋_その他特殊橋			
	対策メニュー	基礎（フーチング含む）		
		橋台		
		橋脚		
		橋脚_段落とし部		
		縁端拡幅		
		落橋防止構造		
		変位制限構造（横変位拘束構造）		
		支承交換		
		段差防止構造		
		上部工補強		
		その他		
	図面の有無			1:竣工図あり　2:竣工図なし

耐震補強	基礎の耐震補強照査時の適用基準・図書類	適用基準・図書類	1:H8 道示（復旧仕様含む）　2:H14 道示　3:H24 道示 4:既設道路橋基礎の補強に関する参考資料（H12.2、日本道路協会） 5:既設道路橋基礎の耐震性能簡易評価手法に関する研究（H22.5、土木研究所） 6:その他の基準・図書類　7:基礎の耐震補強照査を実施していない　8:不明
		基礎の照査結果	1:対策不要　2:要対策　3:不明
		液状化エリア	1:液状化が想定されるエリア内の橋梁　2:液状化の想定されるエリア外の橋梁　3:不明
		簡易判定	1:損傷度Ⅳ又はⅢ以下　2:損傷度Ⅴ(要対策)　3:個別判定
	単径間の橋梁について		1:直橋　2:斜橋・曲線橋　※単径間の橋梁のみ対象
	単径間の橋梁の照査の有無		1:実施　2:未実施
	ロッキング橋脚を有する橋梁（「1」を記載）		
	パイルベント橋脚を有する橋梁（「1」を記載）		
	全国地震予測地図での発生確率		1:26%以上　2:6%以上～26%未満　3:～6%未満

高速跨道橋に関する調査項目	用途種別		
	跨道橋の状況	現在未使用	
		今後の利用の有無	1:1.今後も継続して利用　2:2.現在利用していないが将来利用計画あり 3:3.現在利用しているが将来不要　4:4.今後の利用計画なし
		撤去計画の有無	1:有　2:無
		撤去計画無しの理由	
	跨道橋下の管理者	会社名	1:NEXCO 東日本　2:NEXCO 中日本　3:NEXCO 西日本 4:首都高速道路　5:阪神高速道路　6:本四高速道路
		支社名	
		事務所名	
	跨道橋下の路線情報	路線区別	
		高速道路等名称	
	位置情報	IC 間・自	
		IC 間・至	
		KP	
	管理協定	跨道橋下の管理者と管理協定を締結している	
		管理協定を締結していない場合、理由を記載	

高速跨道橋に関する調査項目	点検状況	実施状況	1:実施　2:未実施(供用 5 年以内) 3:未実施　4:不明
		点検を委託（高速道路会社等が受託）で実施	
		点検方法	1:近接目視・打音検査（H26 以降）　2:近接目視・打音検査（H25 以前） 3:遠方目視（H26 以降）　4:遠方目視（H25 以前）
		跨道橋下管理者との共有	1:点検状況を報告している　2:点検状況を報告していない
	点検結果	最新の点検時期	
		点検結果の判定	1:必要　2:不要
	修繕の内容	はく落対策	yyyy 年度実施済　yyyy 年度実施予定　未実施　－（不要）
		壁高欄補修	yyyy 年度実施済　yyyy 年度実施予定　未実施　－（不要）
		コンクリたたき落とし	yyyy 年度実施済　yyyy 年度実施予定　未実施　－（不要）
		塗替塗装	yyyy 年度実施済　yyyy 年度実施予定　未実施　－（不要）
		クラック補修	yyyy 年度実施済　yyyy 年度実施予定　未実施　－（不要）
		架替	yyyy 年度実施済　yyyy 年度実施予定　未実施　－（不要）
		その他　具体な補修内容を記載	
		その他　年度実施済か	yyyy 年度実施済　yyyy 年度実施予定　未実施　－（不要）
		計画が未実施の場合に理由を記載	1:①予算不足　2:②技術者不足　3:③優先順位が低い 4:④将来撤去予定　5:⑤実施時期検討中
	耐震補強（実施状況・計画）	耐震補強済・不要	
		耐震未照査に該当	
		前項で耐震未照査橋梁とした橋梁の照査実施計画	yyyy 年度　未定

高速跨道橋に関する調査項目	未移管跨道橋移管状況	未移管橋梁		未移管の場合に「1」を記入
		未移管橋梁区分		1:管理について、協定または覚書を交わしているもの 2:管理について、協定または覚書を交わしたが、記録が残っていないもの 3:管理（移管）について、協定または覚書をかわしていないもの 4:移管について、協議しているが、難航しているもの 5:移管について、協定または覚書を交わす協議中のもの
		要請（公表）するべきもの		該当する場合に「1」を記入
		本来管理者フラグ		3:都道府県　4:政令市　5:市区町村 6:国等機関　7:民間　8:その他　9:不明
		本来管理者名（移管予定先）		
		移管後、道路法上の道路になるもの		
		移管後の用途種別	01:道路橋（高速国道） 04:道路橋（都道府県道） 06B:歩道橋（都道府県道） 09:道路橋（林道） 12:道路橋（法定外公共物） 15:水管・水道橋（農業用水） 18:ガス管橋	02:道路橋（一有） 05:道路橋（市区町村道） 07:歩道橋（市区町村道） 10:道路橋（私道） 13:水管・水道橋（上水） 16:水管・水道橋（工業用水） 19:鉄道橋
				03:道路橋（国道） 06A:歩道橋（国道） 08:道路橋（農道） 11:道路橋（公共用道路） 14:水管・水道橋（下水） 17:水管・水道橋（法定外公共物） 20:鉄道橋（モノレール等）
		移管状況		1:移管予定なし　2:未協議　3:協議中　4:協議済　5:協定締結済
		移管時期		

２．点検表記録様式　様式例

様式1

サンプルの為、削除しています　　個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度		施設ID
				経度		
（ﾌﾘｶﾞﾅ）	国道　号	東京都大田区南馬込1丁目				

管理者名	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件（名称）
		有	一般道	一次	電話

道路橋毎の健全性の診断

告示に基づく健全性の診断の区分
Ⅱ

橋梁諸元

架設年度	橋長	幅員	橋梁形式		
			上部構造	下部構造	基礎構造
1940	21.2	25.0	221- ②鋼橋（リベット継手）_I桁（非合成）	14-控え壁式橋台	

※架設年度が不明の場合は「不明」と記入すること。

技術的な評価結果

定期点検実施年月日	2025.05.19	定期点検者	

	想定する状況								
	活荷重		地震		豪雨・出水		その他		
橋（全体として）	A		A		—		（　　）		
上部構造	A	写真番号 1,2,3	A	写真番号	—	写真番号	（　　）		写真番号
下部構造	A	写真番号 5,6	A	写真番号	—	写真番号	（　　）		写真番号
上下部接続部	A	写真番号 4	A	写真番号	—	写真番号	（　　）		写真番号
その他（ﾌｪｰﾙｾｰﾌ）	—	写真番号	A	写真番号 7	—	写真番号	（　　）	—	写真番号
その他（伸縮装置）	B	写真番号 8	—	写真番号	—	写真番号	（　　）	—	写真番号

全景写真（起点側、終点側を記載すること）

終点側



起点側

状況写真（様式1に対応する状態の記録）
〇上部構造、下部構造、上下部接続部、その他について技術的な評価の根拠となる写真を添付すること。

施設ID		定期点検実施年月日	2025.05.19	定期点検者	

構成要素	上部構造		
想定する状況	1-活荷重	構成要素の状態	A



写真番号	1	径間	1	部材番号	08
備考	・床版下面の鋼製型枠に伸縮装置路面の止水ゴム変形部からの路面水の				

構成要素	上部構造		
想定する状況	1-活荷重	構成要素の状態	A



写真番号	2	径間	1	部材番号	09
備考	・主桁上フランジや垂直補剛材に腐食が見られるものの、いずれも板厚減				

構成要素	上部構造		
想定する状況	1-活荷重	構成要素の状態	A



写真番号	3	径間	1	部材番号	07
備考	・端横桁や対傾構に腐食が見られるものの、いずれも板厚減少が見られ				

構成要素	上下部接続部		
想定する状況	1-活荷重	構成要素の状態	A



写真番号	4	径間	1	部材番号	00
備考	・A1,A2橋台の支承本体の下沓に経年劣化と伸縮装置路面の止水ゴム変				

様式2

状況写真（様式1に対応する状態の記録）

〇上部構造、下部構造、上下部接続部、その他について技術的な評価の根拠となる写真を添付すること。

施設ID		定期点検実施年月日	2025.05.19	定期点検者	

構成要素	下部構造		
想定する状況	1-活荷重	構成要素の状態	A



写真番号	5	径間	1	部材番号	02
備考	・A1,A2橋台竪壁に乾燥収縮によるひびわれが見られるものの、支承部周				

構成要素	下部構造		
想定する状況	1-活荷重	構成要素の状態	A



写真番号	6	径間	1	部材番号	02
備考	・基礎地盤周囲に損傷は見られないことから、現状で過大な活荷重や地震				

様式3

特定事象の有無、健全性の診断に関する所見

施設ID		定期点検実施年月日	2025.05.19	定期点検者	

該当部位	特定事象の有無（有もしくは無）						健全性の診断の区分の前提	特記事項（第三者被害の可能性に対する応急措置の実施の有無等）
	疲労	塩害	アルカリ骨材反応	防食機能の低下	洗掘	その他		
上部構造	無	無	無	有	ー	有	現地状況及び近接目視による状態の把握結果	腐食片の叩き落とし除去 その他：伸縮装置からの漏水の影響
下部構造	ー	無	無	ー	無	有	現地状況及び近接目視による状態の把握結果	その他：伸縮装置からの漏水の影響
上下部接続部	無	ー	ー	有	ー	有	現地状況及び近接目視による状態の把握結果	その他：伸縮装置からの漏水の影響
その他（フェールセーフ）	ー	無	無	無	ー	無	現地状況及び近接目視による状態の把握結果	
その他（伸縮装置）	無	ー	ー	ー	ー	有	現地状況及び近接目視による状態の把握結果	その他：伸縮装置からの漏水

所見	

【告示に基づく健全性の診断の区分】
・本橋は、上部構造、上下部接続部、下部構造が「予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態」である。告示に基づく健全性の診断の区分は「Ⅱ」とした。

【対応や調査の必要性】
「緊急措置の必要性」E判定
・特になし

「維持工事等の必要性」M判定
・防護柵のゆるみ・脱落は、維持工事で対応する必要がある。
・地覆外面の鋼製型枠の腐食、欠損は、維持工事で対応する必要がある。

「詳細調査及び追跡調査の必要性」 S1,S2判定
・特になし

【健全性の診断の区分が変わった根拠】
・変更なし

３．橋梁管理カルテ　様式例

ver 1.1.9748

サンプルの為、削除しています

様式3-1

管理上の主要課題		起点側	緯度:	終点側	緯度:	施設ID	
			経度:		経度:		
フリガナ 橋梁名称		完成年度	1940	管轄			
路線名	国道　号	所在地	自	距離標	自		
橋梁番号			至		至		

交通量調査年	2021
交通量(台/12h)	29,358
大型車混入率(%)	11.1

帳票更新年月日	2026年06月25日

注1)　補修により対応した損傷原因、損傷現況は、見え消しとする。
注2)　対策区分がH16要領では「C」、「E1」、「S」のものを示し、H26要領では「C1」、「C2」、「E1」、「S1」、「S2」のものを示します。

A表　主要部材（桁、床版、下部構造等）の重大損傷原因（材料劣化、疲労、塩害、アルカリ骨材反応等）による損傷及びその他原因による損傷のうち今後速やかな補修等が必要な損傷の状況（注2）［重大損傷原因による損傷は現時点での補修等の必要性の有無に関係なく、重大損傷原因の可能性があるものを全て記入］

径間番号	部位・部材区分	材料	健全度(部材単位)	対策区分	損傷原因 注1)		部材番号	損傷現況 注1)				補修履歴			特記事項
					確定	推定		損傷の種類	履歴一覧番号	補修概算事業費(百万円)	備考	工法	履歴一覧番号	備考	
合計										0					

B表　その他部材の損傷等の状況
［速やかな補修等（維持工事を除く）が必要な損傷］（注2）

径間番号	部位・部材区分	材料	健全度(部材単位)	対策区分	損傷現況			補修履歴	特記事項
					損傷の種類	履歴一覧番号	備考	履歴一覧番号	

ver 1.1.9748

[redacted]サンプルの為、削除しています

様式3-1

管理上の主要課題				起点側	緯度:[redacted] 経度:[redacted]	終点側	緯度:[redacted] 経度:[redacted]	施設ID	[redacted]
フリガナ 橋梁名称	[redacted]			完成年度	1940				
路線名	国道[redacted]号	所在地	自	[redacted]	距離標	自	[redacted]	管轄	[redacted]
橋梁番号	[redacted]		至	[redacted]		至	[redacted]		[redacted]

交通量調査年	2021
交通量(台/12h)	29,358
大型車混入率(%)	11.1

帳票更新年月日	2026年06月25日

注1) 補修により対応した損傷原因、損傷現況は、見え消しとする。
注2) 対策区分がH16要領では「C」、「E1」、「S」のものを示し、H26要領では「C1」、「C2」、「E1」、「S1」、「S2」のものを示します。

C表 履歴一覧

履歴一覧番号	年月日	点検・調査履歴			補修補強等履歴			備考(記載者)
		種別・名称	対象部材	内容	種別・名称	対象部材	内容	
1	1978/03/31				補修工事	鋼部材	昭和５２年度　塗装工事	
2	1979/03/30				補修工事	縦桁、対傾構、床版、地覆、防護柵、高欄、伸縮装置、舗装、落橋防止	昭和５３年度　馬込橋補修工事（横河工事（株）施工）	
3	1982/12/23				補修工事	支承、落橋防止	昭和５７年度　五反田大橋他３橋補強工事（横河工事（株）施工）	
4	1990/02/28				補修工事	鋼部材	平成元年度　馬込橋塗装工事	
5	1990/03/24				補修工事	橋台	平成元年度　橋梁補修工事（ショーボンド建設（株））	
6	1999/11/30				補修工事	上部工	平成１１年度　舗装修繕工事	
7	2000/01/13	定期点検	全部材	平成１１年度　管内橋梁点検業務（関東技術事務所発注、（財）道路保全技術センター）にて、定期点検（近接）実施				
8	2002/03/31	第三者被害予防措置	橋台	平成１３年度　第三者被害を予防するための橋梁点検等（金杉橋管内）業務委託にて、第三者措置実施				
9	2005/03/31				補強工事	落橋防止	平成１６年度　東海道本線品川駅構内一般国道１５号八つ山橋他１箇所橋梁補強工事（ＪＲ東日本委託）	
10	2012/01/29	定期点検	全部材	Ｈ２３品川管内橋梁点検他業務（パシフィックコンサルタンツ株式会社）にて実施 E1・E2：緊急対応の必要がある損傷　　◇特になし C：速やかに補修する必要のある損傷　◇特になし S：詳細調査が必要な損傷　　◇特になし				
11	2012/01/17	第三者被害予防措置	竪壁、胸壁、袖擁壁	一般国道15号八ヶ山橋他5橋橋梁点検調査（JR東日本ｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ((株))）にて実施 判定区分B　：竪壁、胸壁 判定区分C　：竪壁、胸壁、袖擁壁 判定区分P　：袖擁壁				
12	2016/12/11	定期点検	全部材	平成28年度点検業務：ジェイアール東日本コンサルタンツ株式会社にて橋梁定期点検を実施。 床版にその他（防水・排水工不良）による対策区分C1の補修・補強材の損傷が見られる。(1径間) 胸壁にその他（製作・施工不良）による対策区分C1の剥離・鉄筋露出が見られる。(1径間) 竪壁にその他（製作・施工不良）による対策区分C1の剥離・鉄筋露出が見られる。(1径間) 支承本体に対策区分C1の腐食が見られる。(1径間) 地覆に対策区分C1の補修・補強材の損傷が見られる。(1径間) 伸縮装置に対策区分C1の腐食、路面の凹凸、変形・欠損が見られる。(1径間)				
13	2016/12/11	第三者被害予防措置	胸壁、竪壁、袖擁壁	平成28年度点検業務：ジェイアール東日本コンサルタンツ株式会社にて第三者被害予防措置を実施。 判定区分P：竪壁、袖擁壁 判定区分C：なし 判定区分B：竪壁、袖擁壁				
14	2021/04/17	第三者被害予防措置	竪壁、袖擁壁	令和3年度点検業務：ＪＲ東日本コンサルタンツ株式会社にて第三者被害予防措置を実施。 判定区分P：なし 判定区分C：竪壁 判定区分B：竪壁、袖擁壁				

ver 1.1.9748

様式3-1

[redacted]サンプルの為、削除しています

管理上の主要課題		起点側	緯度: [redacted] 経度: [redacted]	終点側	緯度: [redacted] 経度: [redacted]	施設ID	[redacted]

フリガナ 橋梁名称	[redacted]	完成年度	1940	管轄	[redacted]
路線名	国道[redacted]号	所在地 自	[redacted]	距離標 自	[redacted]
橋梁番号	[redacted]	至	[redacted]	至	[redacted]

交通量調査年	2021
交通量(台/12h)	29,358
大型車混入率(%)	11.1

帳票更新年月日	2026年06月25日

注1) 補修により対応した損傷原因、損傷現況は、見え消しとする。
注2) 対策区分がH16要領では「C」、「E1」、「S」のものを示し、H26要領では「C1」、「C2」、「E1」、「S1」、「S2」のものを示します。

C表 履歴一覧

履歴一覧番号	年月日	点検・調査履歴			補修補強等履歴			備考(記載者)
		種別・名称	対象部材	内容	種別・名称	対象部材	内容	
15	2021/12/06	定期点検	全部材	令和3年度点検業務：復建エンジ・首都高技術JV、JR東日本Cにて橋梁定期点検を実施。 袖擁壁に対策区分C2のひびわれが見られる。(1径間) 床版にその他（防水・排水工不良）による対策区分C1の腐食、その他が見られる。(1径間) 胸壁にその他（製作・施工不良）による対策区分C1の剥離・鉄筋露出が見られる。(1径間) 竪壁にその他（製作・施工不良）による対策区分C1の剥離・鉄筋露出、うきが見られる。(1径間) 支承本体に対策区分C1の腐食が見られる。(1径間) 地覆に対策区分C1の腐食、変形・欠損が見られる。(1径間) 伸縮装置に対策区分C1の腐食、路面の凹凸、漏水・滞水、変形・欠損が見られる。(1径間) 袖擁壁に対策区分C1の剥離・鉄筋露出、その他が見られる。(1径間)				
16	2025/09/28	定期点検	全部材	令和7年度点検業務：桁下:JR東日本C(株) 橋面:復建E・首都技JVにて橋梁定期点検を実施。				

ver

様式3-2

[redacted]サンプルの為、削除しています

橋梁概要

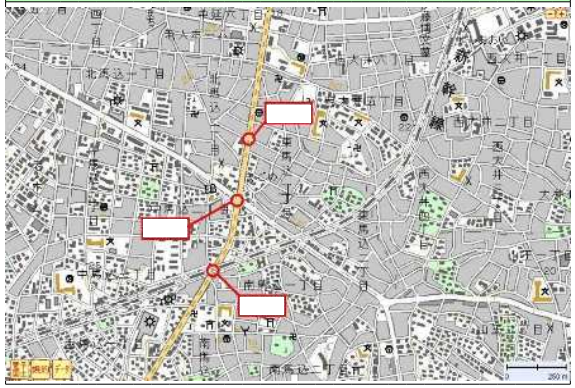
起点側	緯度：		終点側	緯度：		施設ID	
	経度：			経度：			

フリガナ 橋梁名称				完成年度	1940	管轄	
路線名	国道 号	所在地	自	距離標	自		
橋梁番号			至		至		

帳票更新年月日：2026年06月25日

【位置図】

位置図



【橋梁諸元】

橋梁区分	本線橋	橋梁形式	単純鋼(鉄)リベット非合成鈑桁橋	等級		1等橋	設計活荷重	13 t	
橋梁種別	高架橋	橋長(m)	21.200	設計基準	上部構造	昭和14年　鋼道路橋設計示方書案、鋼道路橋製作示方書案	設計震度	0.24	
分割区分	上下線一体	橋面積(m2)	530.1				施工会社	上部構造	不明
事業区分	街路	総径間数	1		下部構造	昭和11年　鉄筋コンクリート標準示方書		下部構造	不明
架橋状況	鉄道の上にある	平面形状	斜橋				荷重制限(tf)		
交差物名称		平面線形(m)	0		耐震補強	平成8年　道路橋示方書　5耐震設計編	通行制限	通行制限　無し	
塩害地域区分	D	縦断勾配(%)	0.000				迂回路有無	有	

【幅員構成】

全幅員(m)	有効幅員(m)	左側(m)						中央帯(m)	分離帯(m)	右側(m)					
		地覆幅	地覆高さ	歩道幅	路肩幅	車線幅	車線数			車線数	車線幅	路肩幅	歩道幅	地覆高さ	地覆幅
25.80	25.00	0.40	0.20	2.00	0.25	10.25	3	0.00	0.00	3	10.25	0.25	2.00	0.20	0.40

【上部構造】

構造体番号	主桁材料区分	支間長(m)	桁高(m)	桁本数	上部構造形式	路面位置	床版材料区分	床版厚(cm)	床版形式	防水工有無
1	鋼（鉄）リベット	20.600m	1.40	9	単純鋼(鉄)リベット非合成鈑桁橋	上路橋	コンクリート系	14.0	場所打床版	

【下部構造】

躯体番号	下部構造材料区分	下部構造高(m)	下部構造形式	基礎材料区分	基礎構造形式	杭径(m)	杭本数	支承形式
A1	RC	8.88	控え壁式橋台	RC	直接基礎			可動線支承
A2	RC	9.05	控え壁式橋台	RC	直接基礎			固定線支承

【写真】

橋梁写真（全景）	撮影年月日	2025年05月19日



【添架物】

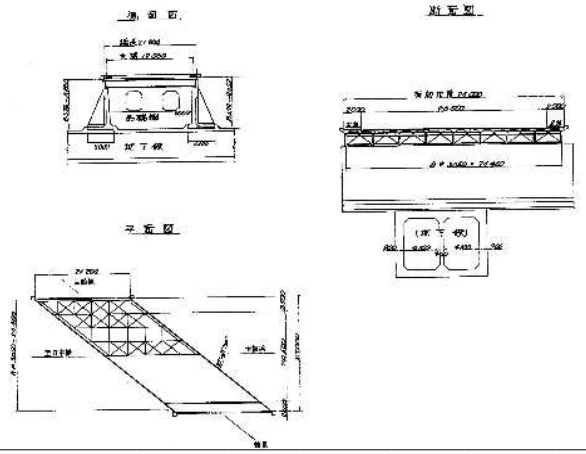
添架物区分	種別	寸法	本数	管理者
占用添架物	電話	1003	30	日本電信電話（株）

【塗装仕様等】

塗装	プライマー下塗り塗料	ジアナミド鉛さび止めペイント1種	点検施設	点検施設無し
	中塗り塗料	長油性フタル酸樹脂上塗り塗料	排水施設	排水施設無し
	上塗り塗料	長油性フタル酸樹脂上塗り塗料	遮音壁の有無	無し
			高欄種別	防護柵

【一般図】

全体一般図



ver 1.1.9748

[redacted] サンプルの為、削除しています

様式3-2

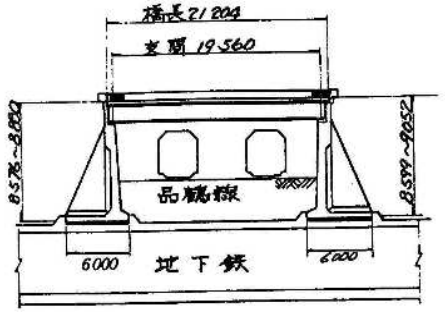
橋梁概要													
					起点側	緯度:[redacted] 経度:[redacted]	終点側	緯度:[redacted] 経度:[redacted]	施設ID	[redacted]			
フリガナ 橋梁名称	[redacted]			完成年度	1940						管轄	[redacted]	
路線名	国道[redacted]号	所在地	自	[redacted]	距離標	自	[redacted]					[redacted]	
橋梁番号	[redacted]		至	[redacted]		至	[redacted]					[redacted]	

帳票更新年月日	2026年06月25日

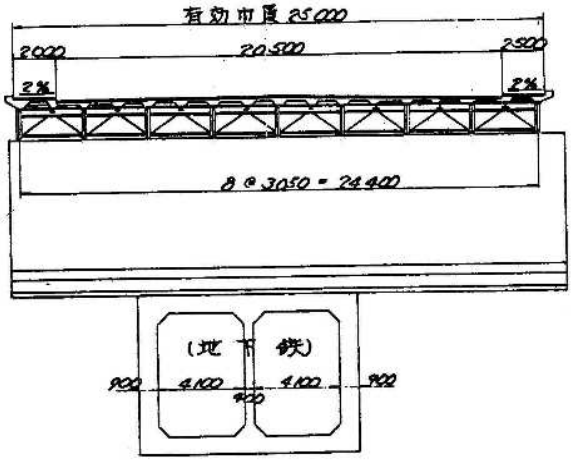
【一般図】

全体一般図

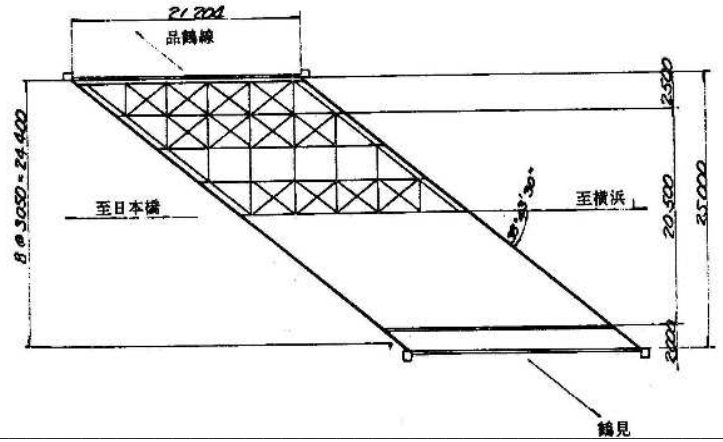
側面図



断面図



平面図



ver 1.1.9748

[redacted] サンプルの為、削除しています

様式3-3

橋梁概要

				起点側	緯度:[redacted] 経度:[redacted]	終点側	緯度:[redacted] 経度:[redacted]	施設ID	[redacted]
フリガナ 橋梁名称	[redacted]			完成年度	1940			管轄	[redacted]
路線名	国道[redacted]号	所在地	自	[redacted]		距離標	自		[redacted]
橋梁番号	[redacted]		至	[redacted]			至		[redacted]

帳票更新年月日	2026年06月25日

履歴一覧番号	年月日	種別・名称	総合検査結果	健全度（橋単位）	代表対策区分
1	1978年03月31日	補修工事	・塗装塗り替え　a－１系		
2	1979年03月30日	補修工事	・床版全長打ち替え：グレーチング床版化 ・縦桁増設、横桁・対傾構改造 ・伸縮装置取り替え：Ａ１、Ａ２ ・落橋防止システム：橋台天端拡幅：Ａ１、Ａ２：ＲＣ拡幅 ・地覆、高欄、防護柵取り替え ・舗装打ち替え		
3	1982年12月23日	補修工事	・可動支承（Ａ１）の移動制限装置設置：チェーンタイプ		
4	1990年02月28日	補修工事	・塗装塗り替え　a－１系		
5	1990年03月24日	補修工事	・Ａ１橋台断面修復工		
6	1999年11月30日	補修工事	・舗装部分オーバレイ		
7	2000年01月13日	定期点検	1.下記、損傷部材・部位については、「機会を見て補修」するのが望ましい。 ・鋼主桁、鋼横桁、鋼縦桁の腐食。 ・鋼支承の塗装劣化、漏水・滞水 ・ゴム製伸縮装置の破断 2.下記、損傷部材・部位については、「通常維持業務で補修」するのが望ましい。 ・練石の変色・劣化 3.下記、損傷部材・部位については「追跡調査」を要す。(1年以内に再点検) ・橋台のひびわれ、剥離・鉄筋露出、遊離石灰、漏水・滞水		
8	2002年03月31日	第三者被害予防措置			
9	2005年03月31日	補強工事	・落橋防止システム設置：変位制限構造：横梁～ＲＣ突起タイプ		
10	2012年01月29日	定期点検	本橋は供用後71年が経過した「単純非合成鈑桁橋」である。直近の塗装は1990年2月である。今回の点検はH16の点検要領に基づく最初の点検である。 (1) 対策区分 E1・E2：緊急対応の必要がある損傷　　◇特になし C：速やかに補修する必要のある損傷　　◇特になし S：詳細調査が必要な損傷　　◇特になし B：状況に応じて補修する必要がある損傷 ◇腐食 ： 主桁,横桁,縦桁,支承本体 ◇ゆるみ・脱落 ： 添架物 ◇防食機能の劣化 ： 支承本体 ◇ひびわれ ： 胸壁(A2),竪壁(A1・A2),袖擁壁 ◇剥離・鉄筋露出 ： 胸壁(A1・A2),竪壁(A1・A2),袖擁壁 ◇漏水・遊離石灰 ： 竪壁(A1・A2),袖擁壁 ◇コンクリート補強材の損傷 ： 床版 ◇うき ： 竪壁(A1・A2) ◇路面の凹凸 ： 伸縮装置 ◇その他 ： 地覆(補強鋼板の腐食,うき),舗装(橋面滞水) ◇漏水・滞水 ： 胸壁(A2),伸縮装置 M：維持工事で対応する必要がある損傷 ◇特になし (2) 特記事項 ◇前回の塗装更新(1990年)から23年が経過しており、鋼部材の腐食が進行している。現状直ちに耐荷力や機能に問題を生じる程度ではないが、計画的な塗装更新が望ましい。		B
11	2012年01月17日	第三者被害予防措置	判定区分Ｂ　：竪壁、胸壁 判定区分Ｃ　：竪壁、胸壁、袖擁壁 判定区分Ｐ　：袖擁壁		

ver 1.1.9748

様式3-3

[redacted]サンプルの為、削除しています

橋梁概要												
					起点側	緯度	[redacted]	終点側	緯度	[redacted]	施設ID	[redacted]
						経度	[redacted]		経度	[redacted]		
フリガナ	[redacted]			完成年度	1940							
橋梁名称	[redacted]											
路線名	国道[redacted]号	所在地	自	[redacted]	距離標	自	[redacted]				管轄	[redacted]
				[redacted]								
橋梁番号	[redacted]		至	[redacted]		至	[redacted]					[redacted]

帳票更新年月日	2026年06月25日

履歴一覧番号	年月日	種別・名称	総合検査結果	健全度（橋単位）	代表対策区分
12	2016年12月11日	定期点検	本橋は供用後77年経過した「単純鋼(鉄)リベット非合成鈑桁橋」である。塗装後の経過年数は27年である。　◇H28年点検、H29年診断業務である。 【健全度】 ◇Ⅱ　予防保全段階：橋台（竪壁，胸壁）の剥離・鉄筋露出、支承の腐食、床版（補修・補強材の損傷）の損傷が見られるため。 【対策区分】　※「→」の後ろは代表的な補修工法等 E1・E2：緊急対応の必要がある損傷 ◇なし C2：橋梁構造の安全性の観点から、速やかに補修する必要がある損傷 ◇なし C1：予防保全の観点から、速やかに補修する必要のある損傷 ◇腐食：支承本体　→　部分再塗装　　◇腐食：伸縮装置　→　伸縮装置取り替え ◇剥離・鉄筋露出：胸壁(A1・A2)，竪壁(A1・A2)　→　断面修復（防錆処理を含む）、剥落防止工 ◇補修・補強材の損傷：床版　→　鋼板塗装、防水工 ◇補修・補強材の損傷：地覆　→　落片撤去、鋼板塗装 ◇路面の凹凸：伸縮装置　→　伸縮装置取り替え ◇変形・欠損：伸縮装置　→　伸縮装置取り替え S1：詳細調査の必要がある損傷 ◇なし S2：追跡調査の必要がある損傷 ◇なし M：維持工事で対応する必要がある損傷 ◇土砂詰まり：伸縮装置　→　清掃 B：状況に応じて補修する必要がある損傷 ◇腐食：主桁，横桁，縦桁　　◇ゆるみ・脱落：添架物 ◇防食機能の劣化：主桁，横桁，縦桁，支承本体，防護柵，伸縮装置　　◇ひびわれ：胸壁(A1・A2)，竪壁(A1・A2)，地覆，袖擁壁 ◇剥離・鉄筋露出：袖擁壁　　◇漏水・遊離石灰：竪壁(A1・A2)，袖擁壁 ◇うき：竪壁(A1・A2)　　◇その他：舗装　　◇漏水・滞水：胸壁(A2) 【維持管理上の問題点、留意事項】 ◇支承，床板型枠鋼板，地覆外側の型枠鋼板の腐食、胸壁(A1・A2)，竪壁(A1・A2)は剥離・鉄筋露出が見られる。ともに第三者影響範囲における損傷であり次回点検時までに損傷進行が懸念される。 予防保全の観点より補修の必要がある。 ◇主桁上フランジ、縦桁腐食も同時に塗装することが望ましい。また橋面防水工が必要である。	Ⅱ	C1
13	2016年12月11日	第三者被害予防措置	判定区分P：竪壁、袖擁壁 判定区分C：なし 判定区分B：竪壁、袖擁壁		
14	2021年04月17日	第三者被害予防措置	判定区分P：なし 判定区分C：竪壁 判定区分B：竪壁、袖擁壁		
15	2021年12月06日	定期点検	本橋は供用後81年経過した「単純鋼(鉄)リベット非合成鈑桁橋」である。再塗装後31年が経過している。本調書は、桁下部分（JR委託）と橋面部分（点検業務）それぞれが作成した調書を診断業務にて一つの調書にまとめたものである。 1．橋としての健全度の評価判定に至った経緯 ・本橋は、床版、橋台、支承部が予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態（部材単位の健全度Ⅱ）にある。 ・このうち、最も構造安全性への影響が大きいと考えられる損傷は、伸縮装置の漏水や床版ひびわれに橋面水が浸透したことが原因と推定される床版の型枠鋼板の腐食である。 ・前回点検と比べ、新たな腐食が見られ、進行は速いと推定される。 ・型枠材の損傷であり、部材の耐荷力が低下する状況ではないが、第三者被害予防措置範囲内の損傷であり、腐食片落下による第三者被害が懸念される。 ・よって、予防保全、耐久性確保の観点から、措置を講ずることが望ましい状態と判断し、橋としての健全度を「Ⅱ」とした。 2．橋の耐久性および維持管理等の観点から是正が必要と考えられる主な事項 1）竪壁，胸壁，袖擁壁に鉄筋露出、うきが見られる。第三者被害予防措置範囲内もしくはその直近であり、コンクリート片落下による第三者被害が懸念されるため、補修が必要である。（C1判定） 2）地覆側面の型枠鋼板に欠損を伴う腐食が見られる。第三者被害予防措置範囲内であり、腐食片落下による第三者被害が懸念されるため、補修が必要である。（C1判定） 3）A1袖擁壁の上部に斜め方向ひびわれが見られる。直上の親柱及び土圧支持機能が低下した状態と推定されるため、補修が必要である。（C2判定） 4）A1支点上の床版の型枠鋼板に剥離が見られる。第三者被害予防措置範囲内であり、型枠材の落下による第三者被害が懸念されるため、維持工事で措置を行う必要がある。（M判定） 5）歩道部のA1,A2伸縮装置に被覆ゴムの欠損や変形、及び段差が見られる。利用者の安全性の低下が懸念されるため、補修が必要である。（C1判定） 3．前回定期点検結果から健全性の診断結果（区分）が変わった理由　・変更なし 4．発生損傷一覧 E1・E2：緊急対応の必要がある損傷　■なし C2：橋梁構造の安全性の観点から、速やかに補修する必要がある損傷　■ひびわれ：袖擁壁 C1：予防保全の観点から、速やかに補修する必要のある損傷 ■腐食：床版，支承本体，地覆，伸縮装置　■剥離・鉄筋露出：胸壁(A2)，竪壁(A1・A2)，袖擁壁　■うき：竪壁(A1・A2) ■路面の凹凸：伸縮装置　■その他：床版，袖擁壁　■漏水・滞水：伸縮装置　■変形・欠損：地覆，伸縮装置 S1：詳細調査の必要がある損傷　■なし S2：追跡調査に必要がある損傷　■なし M：維持工事で対応する必要がある損傷　■変形・欠損：床版 B：状況に応じて補修する必要がある損傷 ■腐食：主桁，横桁，縦桁，対傾構，アンカーボルト，添架物　■ゆるみ・脱落：添架物　■防食機能の劣化：主桁，横桁，縦桁，床版，対傾構，支承本体，アンカーボルト，防護柵，地覆，伸縮装置，添架物 ■ひびわれ：胸壁(A1・A2)，竪壁(A1・A2)，地覆　■剥離・鉄筋露出：胸壁(A1)　■漏水・遊離石灰：胸壁(A2)，竪壁(A1・A2)，袖擁壁　■その他：地覆，舗装　■漏水・滞水：胸壁(A2)　■変形・欠損：縁石 ■土砂詰まり：伸縮装置 5．その他 ■本橋跨線部のうち鉄道に面する範囲は、鉄道事業者との協議の結果、鉄道事業者の指示により橋梁診断員が軌道内に立ち入ることができず、遠望目視による現地検査により対策区分判定、健全性の診断を行った。	Ⅱ	C1

ver 1.1.9748

様式3-3

[redacted]サンプルの為、削除しています

帳票更新年月日	2026年06月25日

橋梁概要

				起点側	緯度		終点側	緯度		施設ID	
					経度			経度			
フリガナ				完成年度	1940						
橋梁名称											
路線名	国道[redacted]号	所在地	自	距離標	自		管轄				
橋梁番号			至		至						

履歴一覧番号	年月日	種別・名称	総合検査結果	健全度（橋単位）	代表対策区分
16	2025年09月28日	定期点検	【告示に基づく健全性の診断の区分】 ・本橋は、上部構造、上下部接続部、下部構造が「予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態」である。告示に基づく健全性の診断の区分は「Ⅱ」とした。 【対応や調査の必要性】 「緊急措置の必要性」E判定 ・特になし 「維持工事等の必要性」M判定 ・防護柵のゆるみ・脱落は、維持工事で対応する必要がある。 ・地覆外面の鋼製型枠の腐食、欠損は、維持工事で対応する必要がある。 「詳細調査及び追跡調査の必要性」 S1,S2判定 ・特になし 【健全性の診断の区分が変わった根拠】 ・変更なし 本橋は、供用後86年経過した「単純鋼(鉄)リベット非合成鈑桁橋」である。鋼部材は再塗装後36年経過している。 1.「構造安全性」や「供用安全性」の観点から特筆すべき事項 (1)橋(全体)としての評価 ・本橋は、橋(全体)として、道路橋の機能に支障が生じていない状態と言える。 2.部材群の評価と措置の必要性 【上部構造】 1)床版・床組部材群 ・床版下面の鋼製型枠に伸縮装置路面の止水ゴム変形部からの路面水の影響が原因の腐食が見られるものの、RC床版の有効断面が減少するような損傷が見られないこと、縦桁及び端横桁の上フランジの腐食が見られるものの、いずれも板厚減少が見られないことから、現状で過大な活荷重にに対して、床組・床版部材群に何らかの変状が生じる可能性は低い。構造安全性の観点での措置の必要性はない。 ・但し、次回点検まで伸縮装置からの水分供給が継続した場合、床版下面の鋼製型枠の腐食進行・拡大する可能性がある。 ・以上により、床版下面の鋼製型枠の腐食については、予防保全(第3者被害予防)の観点から耐久性能の回復を目的とした措置と原因排除を目的とした伸縮装置の止水措置を講ずることが望ましい状態と考える。 2)主桁・主構部材群 ・主桁上フランジや垂直補剛材に腐食が見られるものの、いずれも板厚減少が見られないことから、現状で過大な活荷重や地震にに対して、主桁・主構部材群に何らかの変状が生じる可能性は低い。構造安全性の観点での措置の必要性はない。 ・但し、次回点検まで伸縮装置からの水分供給が継続した場合、主桁の腐食が進行・拡大する可能性がある。 ・以上により、主桁の腐食については、予防保全(第3者被害予防)の観点から耐久性能の回復を目的とした措置と原因排除を目的とした伸縮装置の止水措置を講ずることが望ましい状態と考える。 【上下部接続部】 ・A1,A2橋台の支承本体の下沓に経年劣化と伸縮装置路面の止水ゴム変形部からの路面水の影響による腐食が見られるものの、表面的な腐食であり、部材の断面減少や移動機能を妨げる異常な腐食は見られないこと、支承本体は橋座面に設置され周囲に損傷が見られないこと、かつアンカーボルトにも損傷が見られないことからから、現状で過大な活荷重や地震に対して、支承部材群に何らかの変状が生じる可能性は低い。構造安全性の観点での措置の必要性はない。 ・但し、A1橋台の支承本体は既に防食機能が喪失しており、次回点検まで雨水や伸縮装置からの漏水の影響が継続した場合には、腐食が進行する可能性がある。 ・以上により、支承部材群の支承本体の腐食は、予防保全の観点から耐久性能の回復を目的とした措置を講ずることが望ましい状態と考える。 【下部構造】 ・A1,A2橋台竪壁に乾燥収縮によるひびわれが見られるものの、支承部周辺には損傷は見られず、胸壁や竪壁に　見られる露出した鉄筋には断面減少が生じているが局部的であることから、現状で過大な活荷重や地震に対して、橋台・橋脚部材群に何らかの変状が生じる可能性は低い。構造安全性の観点での措置の必要性はない。 ・但し、次回点検まで伸縮装置からの漏水が継続した場合は、鉄筋の腐食進行や露出範囲の拡大する可能性がある。 ・以上により、橋台の胸壁、竪壁の剥離・鉄筋露出やうきは、予防保全の観点から、耐久性能の回復を目的とした措置を講ずることが望ましい状態と考える。 ・A1橋台竪壁のその他(落書き)は、維持管理の支障となるため、維持工事で対応する必要があると考える。 【その他(フェールセーフ)】 ・特になし。 【その他(伸縮装置)】 ・A1,A2橋台歩道部の伸縮装置に段差が見られ、現状で歩道利用者の通行安全性が低下している状態である。供用安全性の観点で早期に措置する必要性がある状態と言える。 ・加えて、A1,A2歩道部の伸縮装置止水材が変形・欠損による止水機能の低下が見られ、下面部材の損傷要因となっている。 ・以上により、A1,A2橋台上の歩道の伸縮装置の路面の凹凸は、通行安全性の回復を目的とした早期措置を講ずることが望ましい状態と考える。加えて、原因排除を目的とした止水機能の回復措置を講ずることが望ましい状態と考える。 3.その他 ・その他の構造(フェールセーフ・伸縮装置以外)の評価結果については、点検記録様式(その10)を参照。 ・維持工事等の必要性の評価結果については、点検記録様式(その11)を参照。 ・本橋の下部構造は、点検記録様式(その５)の耐荷機構の整理図には記載しているが、上下線一体構造であるため、隣接する上り線の定期点検の記録にて性能評価を行っている。 ・桁下は、鉄道事業者との協議により橋梁診断員による近接目視をしていない。遠望目視とデータ記録様式より構成要素の性能評価を行った。 ・A1側の袖擁壁のひびわれは、大きな地震によって桁下営業線に落下する可能性があるため、早期措置が必要である。 ・地覆外面の鋼製型枠の腐食や欠損は、腐食の浸工によって桁下営業線に腐食片や鋼製型枠が落下する可能性があるため、早期措置が必要である。	Ⅱ	

４．橋梁定期点検　様式例

ver 1.1.9748

[redacted]サンプルの為、削除しています

点検記録様式（その１）
橋梁の諸元と定期点検総合結果（１／２）

起点側		終点側		施設ＩＤ
緯度	35.59307	緯度	35.59288	35.59307,139.71067
経度	139.71067	経度	139.71056	

フリガナ 橋梁名	[redacted]	路線名	国道[redacted]号	管理者	[redacted]	橋梁コード	0030
所在地	自 [redacted]	距離標	自 [redacted]		[redacted]	調書更新年月日	2025年05月29日
	至 [redacted]		至 [redacted]		[redacted]		

供用開始日	1940年04月01日	橋長	21.20m	活荷重・等級	１３ｔ　１等橋			適用示方書	昭和１４年　鋼道路橋設計示方書案、鋼道路橋製作示方書案						
上部構造形式	単純鋼(鉄)リベット非合成鈑桁橋	幅員	全幅員	25.80m	地覆幅	歩道幅		車道幅・車線		車道幅・車線		歩道幅	地覆幅	中央帯	中央分離帯
			有効幅員	25.00m	0.40m	2.00m		10.25m	3	10.25m	3	2.00m	0.40m	0.00m	0.00m
		代替路の有無		有	自専道or一般道			一般道		緊急輸送道路		一次	交通条件	調査年	2021年
下部構造形式	控え壁式橋台2基	路下条件		[redacted]	占用物件（名称）			電話						交通量	29,358台
		備考		[点検会社]桁下:[redacted] [点検方法]桁下:線路閉鎖・き電停止実施時における軌陸高所作業車による近接点検、橋面:地上 [近接不可範囲]無　[支障物件]無 [関係協議先]桁下:[redacted] 橋面:無 [検査路]無　[防水工]不明　[再塗装]有(1990.2) [第三者被害予防措置範囲]第1径間[redacted] [補修履歴]塗装塗替え(1978.3)、床版打ち替え、縦桁増設、横桁・対傾構改造、伸縮装置取替、落橋防止ｼｽﾃﾑ、地覆・高欄・防護柵取替、舗装打ち替え(1979.3)、可動支承移動制限装置設置(1982.12)、塗装塗替え(1990.2)、A1橋台断面修復(1990.3)、舗装部分ｵｰﾊﾞｰﾚｲ(1999.11)、落橋防止ｼｽﾃﾑ設置(2005.3) [構造上の特記事項]無 [その他]桁下はJR敷地内のためJR委託にて実施、橋面は点検業務にて現地点検を実施。							交通条件	交通量	昼間12時間
														大型混入率	11.1%
基礎形式	既製鋼ぐい2基												荷重制限	実施年	
														制限重量	

定期点検総合結果

告示に基づく健全性の診断の区分
II

対応や調査の必要性	
E	S1
無	無
M	S2
有	無

定期点検総合結果に関する補足

【告示に基づく健全性の診断の区分】
・本橋は、上部構造、上下部接続部、下部構造が「予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態」である。告示に基づく健全性の診断の区分は「Ⅱ」とした。

【対応や調査の必要性】
「緊急措置の必要性」E判定
・特になし

「維持工事等の必要性」M判定
・防護柵のゆるみ・脱落は、維持工事で対応する必要がある。
・地覆外面の鋼製型枠の腐食、欠損は、維持工事で対応する必要がある。

「詳細調査及び追跡調査の必要性」 S1,S2判定
・特になし

【健全性の診断の区分が変わった根拠】
・変更なし

ver 1.1.9748

サンプルの為、削除しています　　個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

点検記録様式（その１） 橋梁の諸元と定期点検総合結果（２／２）								
起点側	緯度 経度		終点側	緯度 経度		施設ＩＤ		

フリガナ 橋梁名		路線名	国道　号	管理者		橋梁コード	

性能の評価結果	現地確認年月日	2025.05.19	橋梁診断員（所属、名称）	

	想定する状況における各構成要素等の状態の評価							
	活荷重		地震		豪雨・出水		その他	
橋（全体として）	A		A		NA			
上部構造	A	写真番号 1～20	A	写真番号 1～20	NA	写真番号		写真番号
上下部接続部	A	写真番号 21～24	A	写真番号 21～24	NA	写真番号		写真番号
下部構造	A	写真番号 27～32	A	写真番号 27～32	NA	写真番号		写真番号
その他（フェールセーフ）			A	写真番号 35～38				
その他（伸縮装置）	B	写真番号 39,42						

橋梁診断員所見

本橋は、供用後86年経過した「単純鋼(鉄)リベット非合成鈑桁橋」である。鋼部材は再塗装後36年経過している。

1.「構造安全性」や「供用安全性」の観点から特筆すべき事項
(1)橋(全体)としての評価
・本橋は、橋(全体)として、道路橋の機能に支障が生じていない状態と言える。

2.部材群の評価と措置の必要性
【上部構造】
1)床版・床組部材群
・床版下面の鋼製型枠に伸縮装置路面の止水ゴム変形部からの路面水の影響が原因の腐食が見られるものの、RC床版の有効断面が減少するような損傷が見られないこと、縦桁及び端横桁の上フランジの腐食が見られるものの、いずれも板厚減少が見られないことから、現状で過大な活荷重にに対して、床組・床版部材群に何らかの変状が生じる可能性は低い。構造安全性の観点での措置の必要性はない。
・但し、次回点検まで伸縮装置からの水分供給が継続した場合、床版下面の鋼製型枠の腐食進行・拡大する可能性がある。
・以上により、床版下面の鋼製型枠の腐食については、予防保全(第3者被害予防)の観点から耐久性能の回復を目的とした措置と原因排除を目的とした伸縮装置の止水措置を講ずることが望ましい状態と考える。

2)主桁・主構部材群
・主桁上フランジや垂直補剛材に腐食が見られるものの、いずれも板厚減少が見られないことから、現状で過大な活荷重や地震にに対して、主桁・主構部材群に何らかの変状が生じる可能性は低い。構造安全性の観点での措置の必要性はない。
・但し、次回点検まで伸縮装置からの水分供給が継続した場合、主桁の腐食が進行・拡大する可能性がある。
・以上により、主桁の腐食については、予防保全(第3者被害予防)の観点から耐久性能の回復を目的とした措置と原因排除を目的とした伸縮装置の止水措置を講ずることが望ましい状態と考える。

【上下部接続部】
・A1,A2橋台の支承本体の下沓に経年劣化と伸縮装置路面の止水ゴム変形部からの路面水の影響による腐食が見られるものの、表面的な腐食であり、部材の断面減少や移動機能を妨げる異常な腐食は見られないこと、支承本体は橋座面に設置され周囲に損傷が見られないこと、かつアンカーボルトにも損傷が見られないことからから、現状で過大な活荷重や地震に対して、支承部材群に何らかの変状が生じる可能性は低い。構造安全性の観点での措置の必要性はない。
・但し、A1橋台の支承本体は既に防食機能が喪失しており、次回点検まで雨水や伸縮装置からの漏水の影響が継続した場合には、腐食が進行する可能性がある。
・以上により、支承部材群の支承本体の腐食は、予防保全の観点から耐久性能の回復を目的とした措置を講ずることが望ましい状態と考える。

【下部構造】
・A1,A2橋台竪壁に乾燥収縮によるひびわれが見られるものの、支承部周辺には損傷は見られず、胸壁や竪壁に　見られる露出した鉄筋には断面減少が生じているが局部的であることから、現状で過大な活荷重や地震に対して、橋台・橋脚部材群に何らかの変状が生じる可能性は低い。構造安全性の観点での措置の必要性はない。
・但し、次回点検まで伸縮装置からの漏水が継続した場合は、鉄筋の腐食進行や露出範囲の拡大する可能性がある。
・以上により、橋台の胸壁、竪壁の剥離・鉄筋露出やうきは、予防保全の観点から、耐久性能の回復を目的とした措置を講ずることが望ましい状態と考える。
・A1橋台竪壁のその他(落書き)は、維持管理の支障となるため、維持工事で対応する必要があると考える。

【その他(フェールセーフ)】

ver 1.1.9748

サンプルの為、削除しています

点検記録様式（その１） 橋梁の諸元と定期点検総合結果（２／２）		起点側	緯度 経度	終点側	緯度 経度	施設ＩＤ	

フリガナ 橋梁名		路線名	国道　号	管理者		橋梁コード	

橋梁診断員所見

・特になし。

【その他(伸縮装置)】
・A1,A2橋台歩道部の伸縮装置に段差が見られ、現状で歩道利用者の通行安全性が低下している状態である。供用安全性の観点で早期に措置する必要性がある状態と言える。
・加えて、Ａ１,A2歩道部の伸縮装置止水材が変形・欠損による止水機能の低下が見られ、下面部材の損傷要因となっている。
・以上により、A1,A2橋台上の歩道の伸縮装置の路面の凹凸は、通行安全性の回復を目的とした早期措置を講ずることが望ましい状態と考える。加えて、原因排除を目的とした止水機能の回復措置を講ずることが望ましい状態と考える。

3.その他
・その他の構造(フェールセーフ・伸縮装置以外)の評価結果については、点検記録様式(その10)を参照。
・維持工事等の必要性の評価結果については、点検記録様式(その11)を参照。
・本橋の下部構造は、点検記録様式(その５)の耐荷機構の整理図には記載しているが、上下線一体構造であるため、隣接する上り線の定期点検の記録にて性能評価を行っている。
・桁下は、鉄道事業者との協議により橋梁診断員による近接目視をしていない。遠望目視とデータ記録様式より構成要素の性能評価を行った。
・A1側の袖擁壁のひびわれは、大きな地震によって桁下営業線に落下する可能性があるため、早期措置が必要である。
・地覆外面の鋼製型枠の腐食や欠損は、腐食の浸工によって桁下営業線に腐食片や鋼製型枠が落下する可能性があるため、早期措置が必要である。

ver 1.1.9748

[redacted]サンプルの為、削除しています　[redacted]個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

点検記録様式（その２） 構成要素の機能を担う部材群（システム）毎の評価結果								
起点側	緯度 経度	[redacted]	終点側	緯度 経度	[redacted]	施設ＩＤ	[redacted]	

フリガナ 橋梁名	[redacted]	路線名	国道[redacted]号	管理者	[redacted]	橋梁コード	[redacted]

現地確認年月日	2025.05.19	橋梁診断員	[redacted]

構成要素		構成要素の機能を担う部材群（システム）	性能の評価結果 想定する状況 活荷重	地震	豪雨・出水	その他	特定事象の種類	現地での応急措置 措置の有無	応急措置の内容
上部構造	i	通行車などによる路面に作用する荷重を直接的に支持する機能を担う部材群（床版・床組システム）	A	NA	NA		防食機能の低下,伸縮装置からの漏水の影響	有	腐食片の叩き落とし除去
	ii	上部構造へ作用する鉛直及び水平方向の荷重を支持し、上下部接続部まで伝達する機能を担う部材群（主桁・主構システム）	A	A	NA		防食機能の低下,伸縮装置からの漏水の影響	無	
	iii	上部構造へ作用する荷重を主桁等が上下部接続部に伝達するとき、荷重の支持、伝達を円滑にするための機能を担う部材群（立体機能保持システム）	A	A	NA		防食機能の低下	無	
上下部接続部	iv	上部構造からの荷重を支持し、下部構造へ伝達する機能を担う部材群（支点反力支持システム）	A	A	NA		防食機能の低下,伸縮装置からの漏水の影響	無	
	v	上部構造と下部構造が機能を発揮する前提として、必要な幾何学的境界条件を付与する機能を担う部材群（位置保持システム）	A	A	NA		防食機能の低下,伸縮装置からの漏水の影響	無	
下部構造	vi	上下部接続部からの荷重を直接支持し、基礎・周辺地盤に伝達するとともに、上下部接続部の位置を保持する機能を担う部材群（支点位置保持システム）	A	A	NA		伸縮装置からの漏水の影響	無	
	vii	橋脚・橋台躯体からの荷重を支持し、橋の安定に関わる周辺地盤等に伝達するとともに、地盤面での橋の位置を保持する機能を担う部材群（地表面位置保持システム）	A	A	NA			無	
その他（フェールセーフ）				A				無	
その他（伸縮装置）			B				伸縮装置からの漏水	無	

備考 （性能の評価にあたっての特記事項等）	・桁下であるJR営業線内は、JRとの協議により、橋梁診断員による臨場は不可能であったため、データ記録結果と遠望目視により性能評価を行った。

ver 1.1.9748

サンプルの為、削除しています

点検記録様式（その２） 構成要素の機能を担う部材群（システム）毎の評価結果		起点側	緯度 経度	終点側	緯度 経度	施設ＩＤ	

フリガナ 橋梁名		路線名	国道　号	管理者		橋梁コード	

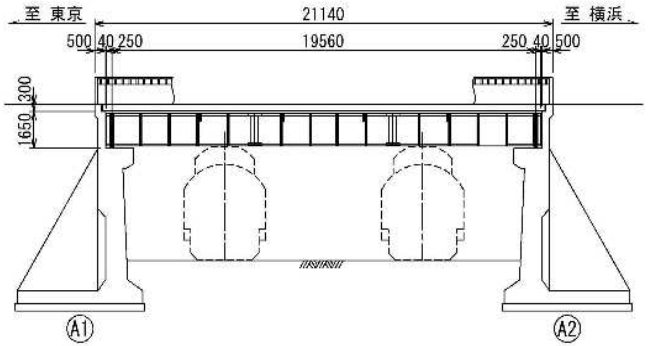
	措置の必要性 （有もしくは無）	損傷の種類	備考	現地での応急措置	
				措置の有無 （有もしくは無）	応急措置内容 （有の場合に記載）
その他構造 （フェールセーフ・伸縮装置以外）	有	剥離・鉄筋露出、その他(うき)、ひびわれ	袖擁壁	無	
	有	腐食、変形・欠損	地覆	有	腐食片の叩き落とし除去

ver 1.1.9748

サンプルの為、削除しています　　個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

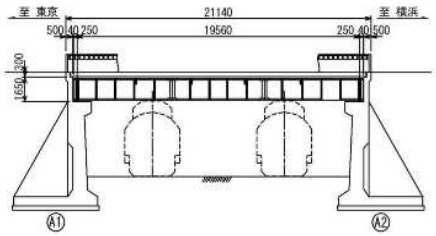
点検記録様式（その３） 径間別一般図		径間番号	1	起点側	緯度 経度	終点側	緯度 経度	施設ＩＤ	
フリガナ 橋梁名		路線名	国道　号	管理者		橋梁コード			
		現地確認年月日	2025.09.28	橋梁検査員					

【 全体図 】

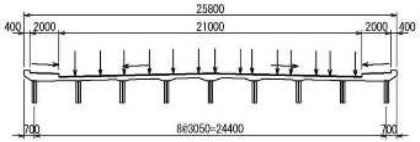


【 一般図 】

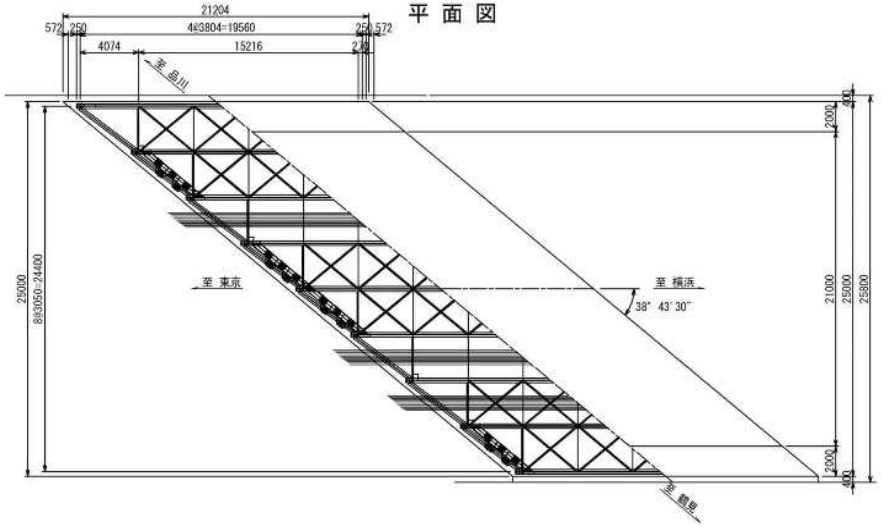
側 面 図



断 面 図



平 面 図



ver 1.1.9748

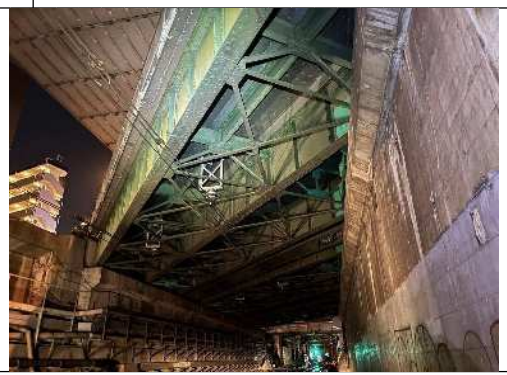
サンプルの為、削除しています　　個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

点検記録様式（その４） 診断のための状態の把握時の現地状況写真	起点側	緯度 経度	終点側	緯度 経度	施設ＩＤ	

フリガナ 橋梁名		路線名	国道　号	管理者		橋梁コード	

現地確認年月日	2025.05.19	橋梁診断員	

現地状況写真

写真番号	1	径間番号	1	写真番号	2	径間番号	1	写真番号	3	径間番号	1
メモ (必要に応じて)	全景 起点右			メモ (必要に応じて)	正面 起点側から			メモ (必要に応じて)	橋面（車道部） 起点側から		
											
写真番号	4	径間番号	1	写真番号	5	径間番号	1	写真番号	6	径間番号	1
メモ (必要に応じて)	橋面（歩道部_下り線側） 起点側から			メモ (必要に応じて)	橋面（歩道部_上り線側） 起点側から			メモ (必要に応じて)	桁下　床版・床組、主桁・主構、立体機能保持部材群 A1側からA2方向を撮影		
											

ver 1.1.9748

サンプルの為、削除しています　個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

点検記録様式（その５） 力学的な機能を担う部材群(システム)の区分	径間番号	1	起点側	緯度 経度	終点側	緯度 経度	施設ＩＤ	

フリガナ 橋梁名		路線名	国道　号	管理者		橋梁コード	

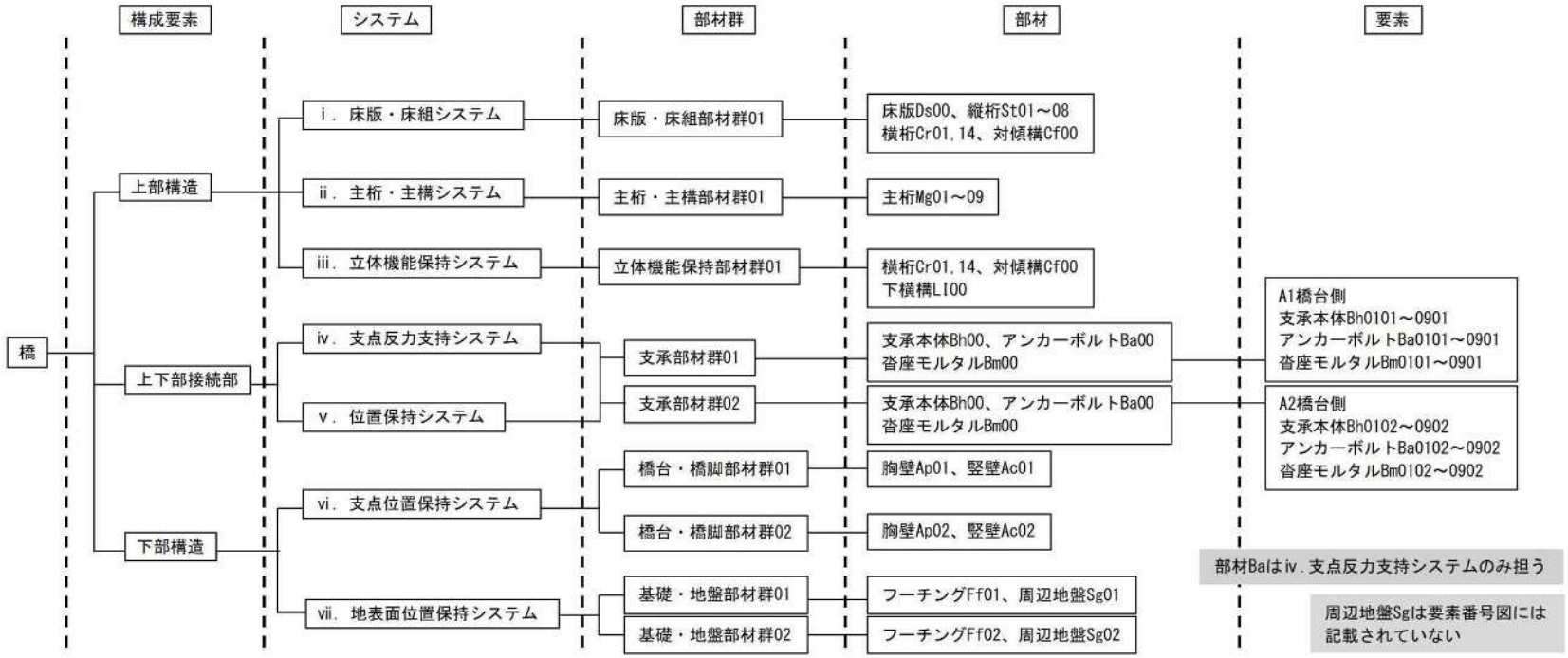
橋梁診断員	

力学的機能に基づく部材群等の区分

ｉ～viiの各システムに属する部材群名と部材群番号を記入する。なお、複数のシステムに部材群が属する場合は、該当するシステム全てに記入すること。

構成要素名	力学的な機能を担う部材群(システム)名		部材群名	部材群番号	部材群名	部材群番号	部材群名	部材群番号
上部構造	i	床版・床組システム	床版・床組部材群	01				
	ii	主桁・主構システム	主桁・主構部材群	01				
	iii	立体機能保持システム	立体機能保持部材群	01				
上下部接続部	iv	支点反力支持システム	支承部材群	01	支承部材群	02		
	v	位置保持システム	支承部材群	01	支承部材群	02		
下部構造	vi	支点位置保持システム	橋台・橋脚部材群	01	橋台・橋脚部材群	02		
	vii	地表面位置保持システム	基礎・地盤部材群	01	基礎・地盤部材群	02		

【耐荷機構の整理図】



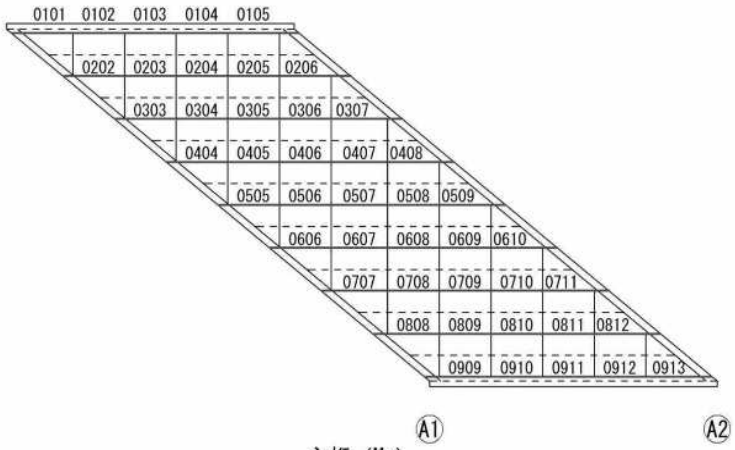
ver 1.1.9748

サンプルの為、削除しています　　個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

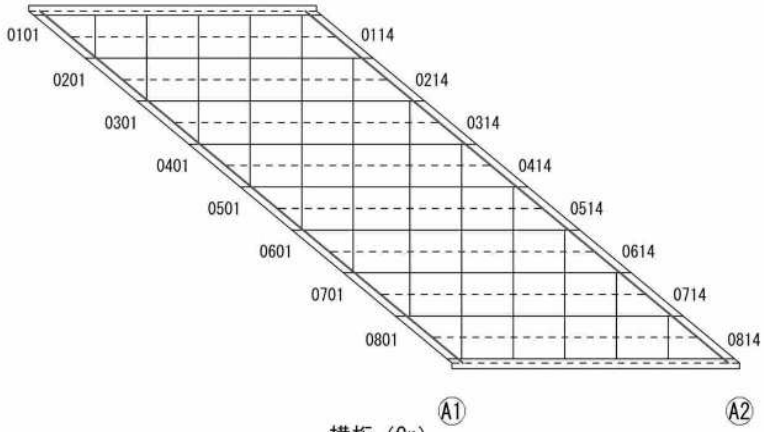
点検記録様式（その６） 要素番号図及び部材番号図	径間番号	1	起点側	緯度 経度	終点側	緯度 経度	施設ＩＤ	
フリガナ 橋梁名		路線名	国道　号		管理者		橋梁コード	
	現地確認年月日	2025.09.28	橋梁検査員					

要素番号図及び部材番号図

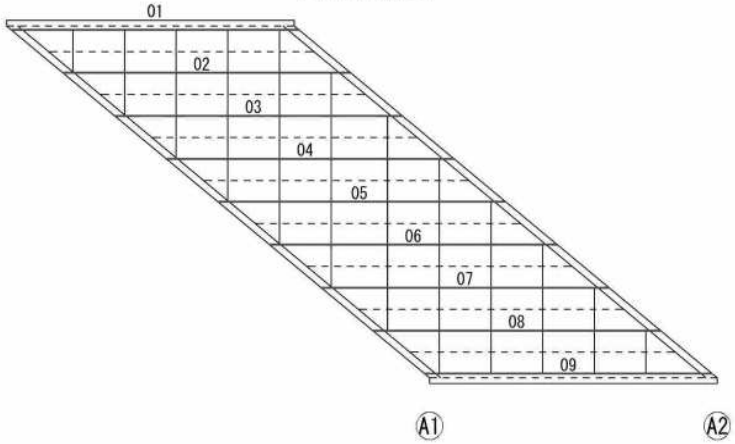
主桁（Mg）



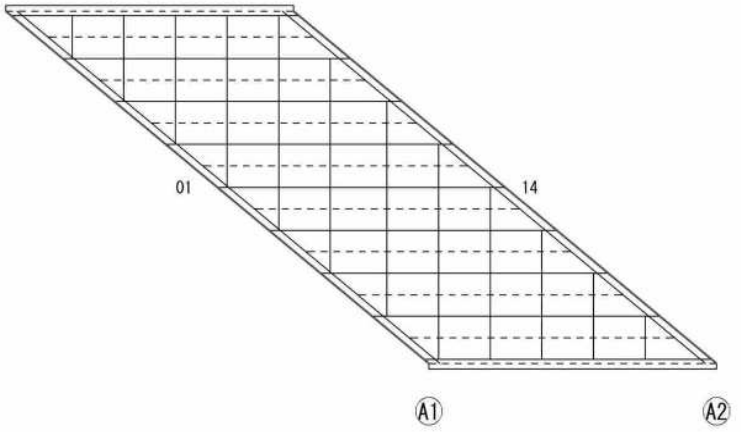
横桁（Cr）



主桁（Mg）
【部材番号図】



横桁（Cr）
【部材番号図】



ver 1.1.9748

サンプルの為、削除しています　　個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

点検記録様式（その７） 診断のための状態把握の方法	径間番号	1	起点側	緯度 経度	終点側	緯度 経度	施設ＩＤ	
フリガナ 橋梁名		路線名	国道　号	管理者		橋梁コード		

現地確認年月日	2025.05.19	橋梁診断員	

部材名	要素番号	点検方法	機器等の性能や条件、特記事項等
フーチング	Ff0101、0102	・土中地盤内にあるため、橋梁診断員による近接目視は不可能。(点検記録様式(その4)、写真番号7,8参照)	・診断による近接目視は不可であるが、可視範囲である下部構造基部や周辺地盤の状況から部材群の診断を行った。
主桁 横桁 縦桁 床版 対傾構、下横構 支承本体、アンカーボルト、沓座モルタル	Mg0101～0913 Cr0101～0814 St0101～0813 Ds0101～1001 Cf0102～0813,Ll0101～0911 Bh,Ba,Bm0101～0902 Ap,Ac0101,0102,Ss0101～0402	・桁下であるJR営業線内は、JRとの協議により、橋梁診断員による臨場は不可能。 （点検記録様式（その4、写真番号6～8参照）	・診断員の近接目視は不可であるが、状態の把握結果である、データ記録様式（その3ー1）損傷図及び（その3ー2）損傷写真からの客観的な事実の聴き取り結果により必要な情報を取得し、部材群の診断を行った。

ver 1.1.9748

サンプルの為、削除しています　　個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

点検記録様式（その８－１） 部材群毎の性能の評価結果	径間番号	1	起点側	緯度 経度	終点側	緯度 経度	施設ＩＤ	

フリガナ 橋梁名		路線名	国道　号	管理者		橋梁コード	

現地確認年月日	2025.05.19	橋梁診断員	

構成要素名	上部構造	力学的な機能を担う部材群名	床版・床組部材群	部材群番号	01	属するシステム	ⅰ.床版･床組システム

写真

写真番号	1	部材名	床版	要素番号	0101
損傷の種類	変形・欠損				



データ記録様式（その３-２）写真番号590

写真番号	2	部材名	床版	要素番号	0101
損傷の種類	腐食				



データ記録様式（その３-２）写真番号592

写真番号	3	部材名	床版	要素番号	0101
損傷の種類	腐食				



データ記録様式（その３-２）写真番号596

写真番号	4	部材名	床版	要素番号	1001
損傷の種類	腐食				



データ記録様式（その３-２）写真番号613

想定する状況における部材群の状態の技術的な評価

想定する状況

活荷重	地震	豪雨・出水	その他	
			( )	( )
A	NA	NA		

特定事象等の有無(有もしくは無)

疲労	塩害	アルカリ骨材反応	防食機能の低下	洗掘	伸縮装置からの漏水の影響	その他	
無	無	無	有	無	有	無	無

緊急対応の必要性(有もしくは無)		維持工事等対応の必要性(有もしくは無)		調査の必要性(有もしくは無)			
				詳細調査		追跡調査	
E	無	M	無	S1	無	S2	無

所見

【１／２枚目】

床版は全面1979年(47年経過)グレーチング床版打替、縦桁増設、横桁及び対傾構の改築がされた。

【損傷状況・原因・進行の状態】
1)床版
・床版Ds0101,1001下面のグレーチング床版鋼製型枠(t=1.6mm)のA1,A2端部に、腐食と遊離石灰(乾燥)が
　見られる。
　(写真番号1～4)
・伸縮装置路面の止水ゴム変形部からの路面水の影響が原因と推定される。
・直上はいずれも歩道部であり、路面舗装にひびわれ等は見られない。
　床版構造はＲＣ床版　厚さ140mm,舗装As=50mm)
・中間部の車道・歩道とも床版の腐食は見られない。(写真番号13～16)
・前回点検から顕著な進行は見られないが、漏水の影響は継続していると考えられる。

2)縦桁・横桁
・縦桁St0813,0501上フランジやA1,A2端横桁上フランジに腐食が見られる。
・再塗装後36年経過しており、経年劣化と伸縮装置路面の止水ゴム変形部からの路面水の影響が原因と推定
　される。
・前回点検から顕著な腐食の進行は見られない。
・その他の箇所に点錆程度である。(写真番号13～16)

【橋梁利用者及び第三者被害の可能性】
・床版下面及び縦桁・横桁に層状さびは見られず、腐食片の落下は見られなかったが、床版下面の鋼製型枠につ　いては、伸縮装置からの漏水の継続により腐食片の落下による第三者被害が生じる可能性があると考えられ
　る。

【部材群の評価と措置の必要性】
・床版下面の鋼製型枠に伸縮装置路面の止水ゴム変形部からの路面水の影響が原因の腐食が見られるものの、RC　床版の有効断面が減少するような損傷が見られないこと、縦桁及び端横桁の上フランジの腐食が見られるもの　の、いずれも板厚減少が見られないことから、現状で過大な活荷重にに対して、床組・床版部材群に何らかの　変状が生じる可能性は低い。構造安全性の観点での措置の必要　性はない。
・但し、次回点検まで伸縮装置からの水分供給が継続した場合、床版下面の鋼製型枠の腐食進行・拡大する
　可能性がある。
・以上により、床版下面の鋼製型枠の腐食については、予防保全(第3者被害予防)の観点から耐久性能の回復
　を目的とした措置と原因排除を目的とした伸縮装置の止水措置を講ずることが望ましい状態と考える。
→次頁に続く

ver 1.1.9748

[redacted]サンプルの為、削除しています　[redacted]個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

点検記録様式（その８－２） 部材群毎の性能の評価結果	起点側	緯度 [redacted]	終点側	緯度 [redacted]	施設ＩＤ [redacted]
		経度 [redacted]		経度 [redacted]	

フリガナ 橋梁名	[redacted]	路線名	国道[redacted]号	管理者	[redacted]	橋梁コード	[redacted]

現地確認年月日	2025.05.19	橋梁診断員	[redacted]

構成要素名	上下部接続部	力学的な機能を担う部材群名	支承部材群	部材群番号	01～02	属するシステム	iv.支点反力支持システム, v.位置保持システム

写真

写真番号	21	部材名	支承本体	径間番号	1
損傷の種類	腐食			要素番号	0101



データ記録様式（その３-２）写真番号666

写真番号	22	部材名	支承本体	径間番号	1
損傷の種類	腐食			要素番号	0401



データ記録様式（その３-２）写真番号669

写真番号	23	部材名	支承本体	径間番号	1
損傷の種類	腐食			要素番号	0102



データ記録様式（その３-２）写真番号677

写真番号	24	部材名	支承本体	径間番号	1
損傷の種類	腐食			要素番号	0402



データ記録様式（その３-２）写真番号681

想定する状況における部材群の状態の技術的な評価

想定する状況

活荷重	地震	豪雨・出水	その他	
			( )	( )
A	A	NA		

特定事象等の有無(有もしくは無)

疲労	塩害	アルカリ骨材反応	防食機能の低下	洗掘	伸縮装置からの漏水の影響	その他	
無	無	無	有	無	有	無	無

緊急対応の必要性(有もしくは無)		維持工事等対応の必要性(有もしくは無)		調査の必要性(有もしくは無)			
				詳細調査		追跡調査	
E	無	M	無	S1	無	S2	無

所見

【耐荷性能のまとめ】
・支点反力支持システム　活荷重：A、地震：A、豪雨･出水：ＮＡ
・位置保持システム　　活荷重：A、地震：A、豪雨･出水：ＮＡ

【損傷状況・原因・進行の状態】
・A1橋台支承本体下沓Bh0101,0401に腐食が見られる。(写真番号21,22)
・再塗装後36年経過しており、経年劣化と伸縮装置路面の止水ゴム変形部からの路面水の影響が原因と推定
　される。
・前回点検から顕著な腐食の進行は見られない。
・A2橋台支承本体や他の支承本体には点錆が見られる。(写真番号23,24)
・前回点検から進行は見られない。
・アンカーボルトには塗膜劣化が見られる。

【部材群の評価と措置の必要性】
・A1,A2橋台の支承本体の下沓に経年劣化と伸縮装置路面の止水ゴム変形部からの路面水の影響による腐食が見　られるものの、表面的な腐食であり、部材の断面減少や移動機能を妨げる異常な腐食は見られないこと、
　支承本体は橋座面に設置され周囲に損傷が見られないこと、かつアンカーボルトにも損傷が見られないことか　らから、現状で過大な活荷重や地震に対して、支承部材群に何らかの変状が生じる可能性は低い。構造安全性　の観点での措置の必要性はない。
・但し、A1橋台の支承本体は既に防食機能が喪失しており、次回点検まで雨水や伸縮装置からの漏水の影響が
　継続した場合には、腐食が進行する可能性がある。
・以上により、支承部材群の支承本体の腐食は、予防保全の観点から耐久性能の回復を目的とした措置を講ずる　ことが望ましい状態と考える。

ver 1.1.9748

[redacted]サンプルの為、削除しています　[redacted]個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

点検記録様式（その９－１） その他（フェールセーフ）の評価結果								
起点側	緯度 経度	[redacted]	終点側	緯度 経度	[redacted]	施設ＩＤ	[redacted]	
フリガナ 橋梁名	[redacted]	路線名	国道[redacted]号	管理者	[redacted]	橋梁コード	[redacted]	

現地確認年月日	2025.05.19	橋梁診断員	[redacted]

構成要素名	その他（フェールセーフ）

写真

写真番号	35	部材名	落橋防止構造	径間番号	1
損傷の種類	NON			要素番号	0101



データ記録様式（その３-２）写真番号5038

写真番号	36	部材名	落橋防止構造	径間番号	1
損傷の種類	NON			要素番号	0401



データ記録様式（その３-２）写真番号5041

写真番号	37	部材名	落橋防止構造	径間番号	1
損傷の種類	NON			要素番号	0102



データ記録様式（その３-２）写真番号5042

写真番号	38	部材名	落橋防止構造	径間番号	1
損傷の種類	NON			要素番号	0402



データ記録様式（その３-２）写真番号5045

想定する状況における部材群の状態の技術的な評価

想定する状況

活荷重	地震	豪雨・出水	その他	
	A			

特定事象等の有無(有もしくは無)

疲労	塩害	アルカリ骨材反応	防食機能の低下	洗掘	伸縮装置からの漏水の影響	その他	
無	無	無	無		無	無	無

緊急対応の必要性(有もしくは無)		維持工事等対応の必要性(有もしくは無)		調査の必要性(有もしくは無)			
				詳細調査		追跡調査	
E	無	M	無	S１	無	S２	無

所見

【損傷状況・原因・進行の状態】
・落橋防止構造に損傷は見られない。(写真番号35～38)

【フェールセーフの評価と措置の必要性】
・落橋防止構造に損傷は見られないことから、現状で過大な地震に対して、フェールセーフの機能に何らかの変　状が生じる可能性は低い。構造安全性の観点での措置の必要性はない。
・フェールセーフの機能に影響を及ぼす損傷は見られないことから、次回点検まで、部材群の耐久性能が低下す　る可能性は低いと考えられる。
・以上により、フェールセーフは、次回点検まで措置は不要であると考える。

ver 1.1.9748

■ サンプルの為、削除しています　■ 個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

点検記録様式（その９－２） その他（伸縮装置）の評価結果	起点側	緯度 ■ 経度 ■	終点側	緯度 ■ 経度 ■	施設ＩＤ ■

フリガナ 橋梁名 ■	路線名	国道■号	管理者 ■	橋梁コード ■

現地確認年月日	2025.05.19	橋梁診断員 ■

構成要素名	その他（伸縮装置）

写真

写真番号	39	部材名	伸縮装置	径間番号	1
損傷の種類	路面の凹凸			要素番号	0101



データ記録様式（その３-２）写真番号9

写真番号	40	部材名	伸縮装置	径間番号	1
損傷の種類	変形・欠損			要素番号	0101



データ記録様式（その３-２）写真番号11

写真番号	41	部材名	伸縮装置	径間番号	1
損傷の種類	変形・欠損			要素番号	0102



データ記録様式（その３-２）写真番号15

写真番号	42	部材名	伸縮装置	径間番号	1
損傷の種類	路面の凹凸			要素番号	0102



データ記録様式（その３-２）写真番号24

想定する状況における部材群の状態の技術的な評価

想定する状況

活荷重	地震	豪雨・出水	その他	
B				

特定事象等の有無(有もしくは無)

疲労	塩害	アルカリ骨材反応	防食機能の低下	洗掘	伸縮装置からの漏水	その他	
無	無	無	無		有	無	無

緊急対応の必要性(有もしくは無)		維持工事等対応の必要性(有もしくは無)		調査の必要性(有もしくは無) 詳細調査		追跡調査	
E	無	M	無	S１	無	S２	無

所見

【１／２枚目】

【損傷状況・原因・進行性】
・A1,A2歩道部の伸縮装置に路面の段差(25～30mm)が見られる。(写真番号39,41)
・橋台背面土工部の経年による圧密沈下が原因と推定される。
・前回点検から進行は見られない。

・A1,A2歩道部の伸縮装置止水材に変形、欠損が見られる。(写真番号40,42～44)
・経年劣化や上部構造の温度収縮による影響が原因と推定される。
・前回点検に補修がされた箇所は、再劣化が見られ、止水ゴム材の変形部に進行は見られない。
・歩道部の止水性が低下しており、下面の主桁、床版に腐食が生じている。

【伸縮装置の評価と措置の必要性】
・A1,A2橋台歩道部の伸縮装置に段差が見られ、現状で歩道利用者の通行安全性が低下している状態である。
　供用安全性の観点で早期に措置する必要性がある状態と言える。
・加えて、Ａ１,A2歩道部の伸縮装置止水材が変形・欠損による止水機能の低下が見られ、下面部材の損傷要因と　なっている。
・以上により、A1,A2橋台上の歩道の伸縮装置の路面の凹凸は、通行安全性の回復を目的とした早期措置を講ず　ることが望ましい状態と考える。加えて、原因排除を目的とした止水機能の回復措置を講ずることが望ましい　状態と考える。

→次頁に続く

ver 1.1.9748

[redacted]サンプルの為、削除しています　[redacted]個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

点検記録様式（その１０） その他構造（フェールセーフ及び伸縮装置以外）の評価結果								
起点側	緯度 経度		終点側	緯度 経度		施設ＩＤ	

フリガナ 橋梁名		路線名	国道　号	管理者		橋梁コード	

現地確認年月日	2025.05.19	橋梁診断員	

構成要素名	その他構造（フェールセーフ・伸縮装置以外）

写真

写真番号	45	部材名	袖擁壁	径間番号	1	写真番号	46	部材名	袖擁壁	径間番号	1
損傷の種類		ひびわれ		要素番号	0101	損傷の種類		ひびわれ		要素番号	0101



データ記録様式（その３-２）写真番号732



データ記録様式（その３-２）写真番号733

写真番号		部材名		径間番号		写真番号		部材名		径間番号	
損傷の種類				要素番号		損傷の種類				要素番号	

緊急対応の必要性 (有もしくは無)		維持工事等対応の必要性 (有もしくは無)		調査の必要性(有もしくは無)			
				詳細調査		追跡調査	
E	無	M	無	S１	無	S２	無

所見

◆袖擁壁のひびわれ
・A1左側の袖擁壁Ww0101に親柱との境界部から連続する斜め方向のひびわれ(幅8mm)や
　鉛直方向のひびわれ(幅2.2mm)見られる。(写真番号45,46,48)
・背面土圧を支持する部位でないことから、地震時の水平力が原因と推定される。
・前回点検から進行は見られない。損傷の記録は前回点検(R2年)から記録されている。
【機能の評価】
・ひびわれから錆汁の析出は見られないが、直上の親柱との一体性は低下しており、親柱を支持する機能が低下　した状態である。
【第三者被害等の可能性】
・次回点検まで大きな地震により水平力が生じると桁下の営業線への落下により、第三者被害の可能性がある。
【機能の評価と措置の必要性】
・ひびわれから錆汁の析出は見られないが、直上の親柱との一体性は低下しており、親柱を支持する機能が低下　した状態である。
・次回点検まで大きな地震が生じると親柱の支持機能の更なる低下や桁下の営業線へ親柱が落下する可能性があ　るため、早期に部材機能の回復措置を講ずべき状態と考える。

ver 1.1.9748

サンプルの為、削除しています　　個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

点検記録様式（その１１） 維持工事等の必要性								
起点側	緯度 経度		終点側	緯度 経度		施設ＩＤ		

フリガナ 橋梁名		路線名	国道 号	管理者		橋梁コード	

現地確認年月日	2025.05.19	橋梁診断員	

維持工事等の対応が必要な部材等一覧

径間番号	箇所	状態と必要な行為	写真番号
1	床版Ds0101,1001	落下が懸念される床版下面型枠の腐食に対する第三者被害予防措置の実施	1～4
1	胸壁、竪壁Ap,Ac0101,0102	落下が懸念される胸壁、竪壁コンクリートの剥離・うきに対する中間年における「橋梁における第三者被害予防措置要領（案）」の実施	26～32

ver 1.1.9748

サンプルの為、削除しています　　個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

データ記録様式（その１） データ記録時の現地状況写真	起点側	緯度 経度	終点側	緯度 経度	施設ＩＤ	

フリガナ 橋梁名		路線名	国道　号	管理者		橋梁コード	

現地確認年月日	2025.09.28	橋梁検査員	

現地状況写真

写真番号	1	径間番号	1
メモ（必要に応じて）	全景 起点右		



写真番号	2	径間番号	1
メモ（必要に応じて）	正面 起点側から		



写真番号	3	径間番号	1
メモ（必要に応じて）	橋面（車道部） 起点側から		



写真番号	4	径間番号	1
メモ（必要に応じて）	橋面（歩道部_下り線側） 起点側から		



写真番号	5	径間番号	1
メモ（必要に応じて）	橋面（歩道部_上り線側） 起点側から		



写真番号	6	径間番号	1
メモ（必要に応じて）	桁下面 A1側からA2方向を撮影		



ver 1.1.9748

サンプルの為、削除しています　　個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

データ記録様式（その２） データの収集・記録の方法	径間番号		起点側	緯度 経度		終点側	緯度 経度		施設ＩＤ	
フリガナ 橋梁名		路線名	国道　号		管理者			橋梁コード		

現地確認年月日	2025.09.28	橋梁検査員	

部材名	部材番号	要素番号	点検方法	機器等の性能や条件、特記事項等

ver 1.1.9748

サンプルの為、削除しています　　個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

データ記録様式（その３－１） 損傷図	径間番号	1	起点側	緯度 経度	終点側	緯度 経度	施設ＩＤ	

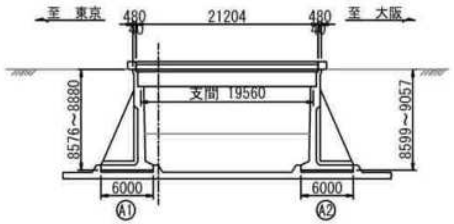
フリガナ 橋梁名		路線名	国道　号	管理者		橋梁コード	

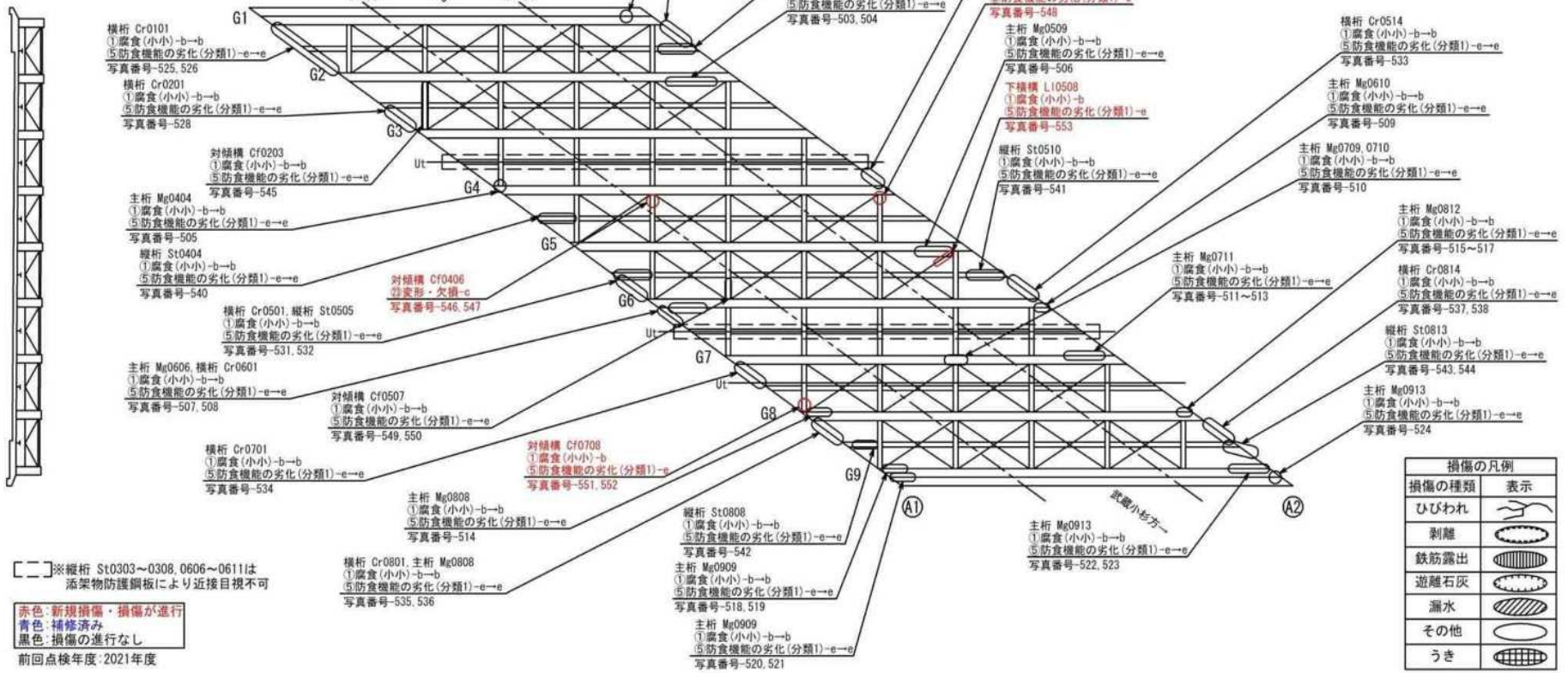
現地確認年月日	2025.09.28	橋梁検査員	

損傷図

桁下面（1/4）

主桁(Mg)，横桁(Cr)，縦桁(St)
対傾構(Cf)，下横構(Ll)





ver 1.1.9748

サンプルの為、削除しています　　個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

データ記録様式（その３－２） 損傷写真	径間番号	1	起点側	緯度 経度	終点側	緯度 経度	施設ＩＤ	

フリガナ 橋梁名		路線名	国道　号	管理者		橋梁コード	
備考							

現地確認年月日	2025.09.28	橋梁検査員	

損傷写真

写真番号	501	撮影年月日	2025.08.24
部材名	主桁	要素番号	0105
損傷の種類	腐食	損傷程度	b



前回損傷程度：b

メモ：G1主桁垂直材に腐食(小小)が見られる。
⑤防食機能の劣化(分類1)-e

写真番号	502	撮影年月日	2025.08.24
部材名	主桁	要素番号	0105
損傷の種類	腐食	損傷程度	b



前回損傷程度：b

メモ：写真501近景。

写真番号	0	撮影年月日	
部材名		要素番号	
損傷の種類		損傷程度	

前回損傷程度：

メモ：

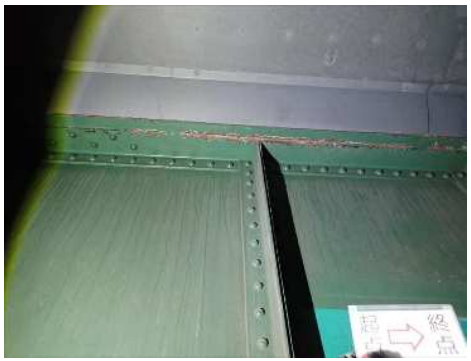
写真番号	503	撮影年月日	2025.09.28
部材名	主桁	要素番号	0206
損傷の種類	腐食	損傷程度	b



前回損傷程度：b

メモ：G2主桁上フランジに腐食(小小)が見られる。
⑤防食機能の劣化(分類1)-e

写真番号	前回-501	撮影年月日	2021.03.10
部材名	主桁	要素番号	0206
損傷の種類	腐食	損傷程度	b



前回損傷程度：c

メモ：G2主桁上フランジに腐食(小小)が見られる。
⑤防食機能の劣化(分類1)-e
※前回から損傷程度を見直し、①腐食(小大)→ｅ→(小小)-bとする。
※前回点検から要素番号を修正

前回点検年度:2021年度

写真番号	504	撮影年月日	2025.09.28
部材名	主桁	要素番号	0206
損傷の種類	腐食	損傷程度	b



前回損傷程度：b

メモ：写真503近景。

ver 1.1.9748

サンプルの為、削除しています　　個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

データ記録様式（その３－３） 損傷程度の評価記入表	径間番号	1	起点側	緯度		終点側	緯度		施設ＩＤ	
				経度			経度			

フリガナ 橋梁名		路線名	国道　号	管理者		橋梁コード	

現地確認年月日	2025.09.28	橋梁検査員	

工種	材料	部材種別			損傷程度			損傷 パターン	損傷の種類	分類
		名称	記号	要素番号	損傷程度の評価	定量的に取得した値	単位			
S	S	主桁	Mg	0101	b				腐食	
S	S	主桁	Mg	0101	e				防食機能の劣化	(1)
S	S	主桁	Mg	0102	b				腐食	
S	S	主桁	Mg	0102	e				防食機能の劣化	(1)
S	S	主桁	Mg	0103	b				腐食	
S	S	主桁	Mg	0103	e				防食機能の劣化	(1)
S	S	主桁	Mg	0104	b				腐食	
S	S	主桁	Mg	0104	e				防食機能の劣化	(1)
S	S	主桁	Mg	0105	b				腐食	
S	S	主桁	Mg	0105	e				防食機能の劣化	(1)
S	S	主桁	Mg	0202	b				腐食	
S	S	主桁	Mg	0202	e				防食機能の劣化	(1)
S	S	主桁	Mg	0203	b				腐食	
S	S	主桁	Mg	0203	e				防食機能の劣化	(1)
S	S	主桁	Mg	0204	b				腐食	
S	S	主桁	Mg	0204	e				防食機能の劣化	(1)
S	S	主桁	Mg	0205	b				腐食	
S	S	主桁	Mg	0205	e				防食機能の劣化	(1)
S	S	主桁	Mg	0206	b				腐食	
S	S	主桁	Mg	0206	e				防食機能の劣化	(1)

ver 1.1.9748

サンプルの為、削除しています　　個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

データ記録様式（その３－４） 損傷程度の評価結果総括	径間番号	1	起点側	緯度	終点側	緯度	施設ＩＤ	
				経度		経度		

フリガナ 橋梁名		路線名	国道　号	管理者		橋梁コード	

現地確認年月日	2025.09.28	橋梁検査員	

工種	材料	部材種別			今回定期点検		点検日		2025年09月28日				前回定期点検		点検日		2021年12月06日			
		名称	記号	部材番号	損傷の種類及び損傷程度								損傷の種類及び損傷程度							
S	S	主桁	Mg	01	腐食	b	防食機能の劣化	e					腐食	b	防食機能の劣化	e				
S	S	主桁	Mg	02	腐食	b	防食機能の劣化	e					腐食	b	防食機能の劣化	e				
S	S	主桁	Mg	03	腐食	b	防食機能の劣化	e					腐食	b	防食機能の劣化	e				
S	S	主桁	Mg	04	腐食	b	防食機能の劣化	e					腐食	b	防食機能の劣化	e				
S	S	主桁	Mg	05	腐食	b	防食機能の劣化	e					腐食	b	防食機能の劣化	e				
S	S	主桁	Mg	06	腐食	b	防食機能の劣化	e					腐食	b	防食機能の劣化	e				
S	S	主桁	Mg	07	腐食	b	防食機能の劣化	e					腐食	b	防食機能の劣化	e				
S	S	主桁	Mg	08	腐食	b	防食機能の劣化	e					腐食	b	防食機能の劣化	e				
S	S	主桁	Mg	09	腐食	b	防食機能の劣化	e					腐食	b	防食機能の劣化	e				
S	S	横桁	Cr	01	腐食	b	防食機能の劣化	e					腐食	b	防食機能の劣化	e				
S	S	横桁	Cr	14	腐食	b	防食機能の劣化	e					腐食	b	防食機能の劣化	e				
S	S	縦桁	St	01	腐食	b	防食機能の劣化	e					腐食	b	防食機能の劣化	e				
S	S	縦桁	St	02	腐食	b	防食機能の劣化	e					腐食	b	防食機能の劣化	e				
S	S	縦桁	St	03	不可視								腐食	b	防食機能の劣化	e				
S	S	縦桁	St	04	腐食	b	防食機能の劣化	e					腐食	b	防食機能の劣化	e				
S	S	縦桁	St	05	腐食	b	防食機能の劣化	e					腐食	b	防食機能の劣化	e				
S	S	縦桁	St	06	不可視								腐食	b	防食機能の劣化	e				
S	S	縦桁	St	07	腐食	b	防食機能の劣化	e					腐食	b	防食機能の劣化	e				
S	S	縦桁	St	08	腐食	b	防食機能の劣化	e					腐食	b	防食機能の劣化	e				
S	S	床版	Ds	00	腐食	d	防食機能の劣化	e	その他	e	変形・欠損	e	腐食	d	防食機能の劣化	e	その他	e	変形・欠損	e

ver 1.1.9748

サンプルの為、削除しています　　個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

データ記録様式（その４－1） 洗堀の状態写真	径間番号		起点側	緯度 経度	終点側	緯度 経度	施設ＩＤ	

フリガナ 橋梁名		路線名	国道　号	管理者		橋梁コード	
備考							

現地確認年月日	2025.09.28	橋梁検査員	

洗堀の状態写真

写真番号		撮影年月日		写真番号		撮影年月日		写真番号		撮影年月日	
部材名		要素番号		部材名		要素番号		部材名		要素番号	
損傷の種類		損傷程度		損傷の種類		損傷程度		損傷の種類		損傷程度	
		前回損傷程度				前回損傷程度				前回損傷程度	
		メモ				メモ				メモ	

写真番号		撮影年月日		写真番号		撮影年月日		写真番号		撮影年月日	
部材名		要素番号		部材名		要素番号		部材名		要素番号	
損傷の種類		損傷程度		損傷の種類		損傷程度		損傷の種類		損傷程度	
		前回損傷程度				前回損傷程度				前回損傷程度	
		メモ				メモ				メモ	

ver 1.1.9748

サンプルの為、削除しています　　個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

データ記録様式（その４－２） 洗堀の計測結果	径間番号		起点側	緯度 経度	終点側	緯度 経度	施設ＩＤ	
フリガナ 橋梁名		路線名	国道　号		管理者		橋梁コード	
	現地確認年月日	2025.09.28	橋梁検査員					

洗堀の計測結果

点検年月日：

ver 1.1.9748

サンプルの為、削除しています　　個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

データ記録様式（その５－１） 塩化物イオン量の計測結果	径間番号	対象外	起点側	緯度 経度	終点側	緯度 経度	施設ＩＤ	

フリガナ 橋梁名		路線名	国道　号	管理者		橋梁コード	

現地確認年月日	2025.09.28	橋梁検査員	

計測結果一覧

かぶり

工種	材料	部材種別 名称	部材種別 記号	要素番号	測定位置	設計かぶり(mm)	かぶりの代表値(mm)	かぶりの測定値(mm) 測定値１	測定値２	測定値3	測定値4	測定値5	測定値6	測定値7	測定値8	実測によるかぶり(mm)	実測かぶり測定位置	かぶりの測定方法 記号	かぶりの測定方法 名称

塩化物イオン量

工種	材料	部材種別 名称	部材種別 記号	要素番号	測定位置	中性化深さ(mm)	鉄筋位置での塩化物イオン量(kg/m3)	測定深さ(上段：始端mm、中段：終端mm)、測定値(下段：kg/m3) 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	塩化物イオン量試験方法 記号	塩化物イオン量試験方法 名称	初期塩化物イオン量(kg/m3)	表面塩化物イオン量(kg/m3)	見掛けの拡散係数(cm2/年)	将来推定年	将来の鉄筋位置での塩化物イオン量(kg/m3)

位置図

注1) かぶりの代表値：測定結果の10%分位点（塩害に関する特定点検要領参照）を入力する。

注2) 測定位置：位置図に示した記号と対応させる。

注3) 実測によるかぶり、実測かぶり測定位置：電磁波反射法で、実測によりキャブレーションを行った場合に記入する。

注4) 測定深さ：コンクリート部材表面からの深さ。

備考

ver 1.1.9748

サンプルの為、削除しています　　個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

データ記録様式（その５－２） 塩化物イオン量の計測状況写真	径間番号		起点側	緯度 経度	終点側	緯度 経度	施設ＩＤ	
フリガナ 橋梁名		路線名	国道　号	管理者		橋梁コード		
備考								

現地確認年月日	2025.09.28	橋梁検査員	

塩化物イオン量の計測状況写真

写真番号		撮影年月日		写真番号		撮影年月日		写真番号		撮影年月日	
部材名		要素番号		部材名		要素番号		部材名		要素番号	
メモ				メモ				メモ			
写真番号		撮影年月日		写真番号		撮影年月日		写真番号		撮影年月日	
部材名		要素番号		部材名		要素番号		部材名		要素番号	
メモ				メモ				メモ			

ver 1.1.9748

サンプルの為、削除しています　　個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

データ記録様式（その６） 引き継ぎ事項等	起点側	緯度 経度	終点側	緯度 経度	施設ＩＤ	

フリガナ 橋梁名		路線名	国道　号	管理者		橋梁コード	

現地確認年月日	2025.09.28	橋梁検査員	

記入欄	

５．道路管理データ（MICHI）　様式例

[redacted]サンプルの為、削除しています

橋梁台帳

名称　：[redacted]	路線名　：　国道[redacted]号　　現旧区分：　現道	整理番号１[redacted]
現在地(自)：[redacted]	距離標(自)：[redacted]	調製年月日　19950301
(至)：[redacted]	(至)：[redacted]	改訂年月日　20010331

【基本諸元】

橋梁区分：本線橋	橋長：21.200 m	架設竣工年：1940
橋梁種別：高架橋	総径間数：1	橋の等級：１等橋
上部工分離・橋脚	橋面積：530.1 ㎡	適用示方書：昭和１４年
一体構造の別：＊	平面形状：斜橋	設計活荷重：１３ｔ
分割区分：上下線一体	最小半径： m	水平震度：kh=
事業区分：街路	縦断勾配：0.000 %	［特殊荷重］
路線名（俗称）：国道[redacted]	［舗装］種別：アスファルト系	1：#
［交通規制］	面積：530.1 ㎡	2：#
通行制限：通行制限　無し	粒度 上層：#	3：#
荷重制限： tf	下層：＊	4：#
制限　高さ： m	種類 上層：#	5：#
幅： m	下層：＊	6：#
迂回路の有無：有	厚さ 上層：5.0 ㎝	［基本耐荷力］
交通現況：渋滞がほぼ毎日、ピーク時において生じ	下層：＊ ㎝	主桁，主構，ﾄﾗｽ橋
［他域橋長］	［照明］有無：無し	載荷弦：# tf
起点側所在地：[redacted]	歩道添架の有無：無し	その他：# tf
終点側所在地：[redacted]	点検施設：点検施設無し	床及び床組
起終点区分：＊	排水施設：排水施設無し	床版：# tf
他域延長：＊ m	遮音壁の有無：無し	縦桁・横桁：# tf
［橋梁接続］	遮光壁の有無：無し	工費　上部工：# 百万円
起点側	踏掛版の有無：無し	下部工：# 百万円
市区町村：＊	凍結防止剤の	備考：
橋梁種別：＊	散布回数：散布しない	
事務所コード：＊	［消雪パイプ］	
出張所コード：＊	有無：無し	
橋梁コード：＊	［ﾛｰﾄﾞﾋｰﾃｨﾝｸﾞ］	
分割番号：＊	有無：無し	
終点側	［床版防水工］	
市区町村：＊	種別：？	
橋梁種別：＊	範囲：？	
事務所コード：＊	面積：？ ㎡	
出張所コード：＊	塩害地域区分：	
橋梁コード：＊	塩害地域距離：6.0 ㎞	
分割番号：＊	［落下物防止柵］	
	高さ：＊ m	
	延長：＊ m	

[redacted]サンプルの為、削除しています

橋梁台帳 [redacted]

名称　：[redacted]	路線名　：　国道[redacted]号　　現旧区分：　現道	整理番号１[redacted]
現在地(自)：[redacted]	距離標(自)：[redacted]	調製年月日　19950301
(至)：[redacted]	(至)：[redacted]	改訂年月日　20010331

【上部工諸元】

構造体番号	径間番号	支間長(m)	材料区分	桁形式区分	路面位置	構造形式	床版種類使用形式	床版厚(cm)	本体塗装面積(㎡)	高欄塗装面積(㎡)
1	１０	19.560	鋼（鉄）リベット橋	単純桁	上路橋	Ｉ桁（非合成）	場所打床版	14.0	1490.0	?

サンプルの為、削除しています

橋梁台帳

名称　： 現在地(自)： (至)：	路線名　：　国道　号　　現旧区分：　現道 距離標(自)： (至)：	整理番号１ 調製年月日　19950301 改訂年月日　20010331

【下部工諸元】

躯体番号	構造形式	基礎形式	抗径(m)	杭本数	本体塗装面積(㎡)	備考
A1	控え壁式橋台	直接基礎	*	*	*	
A2	控え壁式橋台	直接基礎	*	*	*	

サンプルの為、削除しています

橋梁台帳

名称　： 現在地(自)： (至)：	路線名　：　国道　号　　現旧区分：　現道 距離標(自)： (至)：	整理番号１ 調製年月日　19950301 改訂年月日　20010331

【幅員】

全幅員 m	有効幅(m)	左側						中央帯 m	分離帯 m	右側						供用開始年月日
		地覆幅 m	地覆高さ m	歩道幅 m	路肩幅 m	車道幅 m	車線数			車線数	車道幅 m	路肩幅 m	歩道幅 m	地覆高さ m	地覆幅 m	
25.80	25.00	0.40	0.20	2.00	0.25	10.25	3	0.00	0.00	3	10.25	0.25	2.00	0.20	0.40	19740331

【高欄・防護柵】

整理番号２	設置個所	高欄・防護柵の別	材質(材料)	形式	防護柵設計種別	高さ(m)	備考
0001	左　歩道端	防護柵	*	*	路側用	*	
0002	左　歩車道境界	防護柵	*	*	路側用	*	
0003	右　歩車道境界	防護柵	*	*	路側用	*	
0004	右　歩道端	防護柵	*	*	路側用	*	

【交差状況】

整理番号２	架橋状況	交差物名称	協議有無	協議機関	備考
0001	鉄道の上にある	横須賀線	有り	東日本鉄道（株）	

サンプルの為、削除しています

橋梁台帳

名称　： 現在地(自)： (至)：	路線名　：　国道　号　　現旧区分：　現道 距離標(自)： (至)：	整理番号１ 調製年月日　19950301 改訂年月日　20010331

【添架物諸元】

整理番号２	添架物区分	添架物種別	寸法（電話・電力→XX条XX段）（上記以外 →φXXXXmm）	占用物件本数	重量(kgf/m)	管理者名	備考
0001	占用添架物	電話	1003	30	?	日本電信電話（株）	

【塗装歴】

整理番号２	上・下部工区分	径間又は躯体番号	塗装年月日	下塗塗料	中塗塗料	上塗塗料	本体塗装 (㎡)	高欄塗装(㎡)	塗装色
0001	上部工	10	19780331	?	?	?	1500.0	0.0	P12-512
0002	上部工	10	19900200	鉛系さび止めペイント１種	長油性フタル酸樹脂中塗り塗料	長油性フタル酸樹脂上塗り塗料	1490.0	0.0	?

[redacted]サンプルの為、削除しています

橋梁台帳 [redacted]

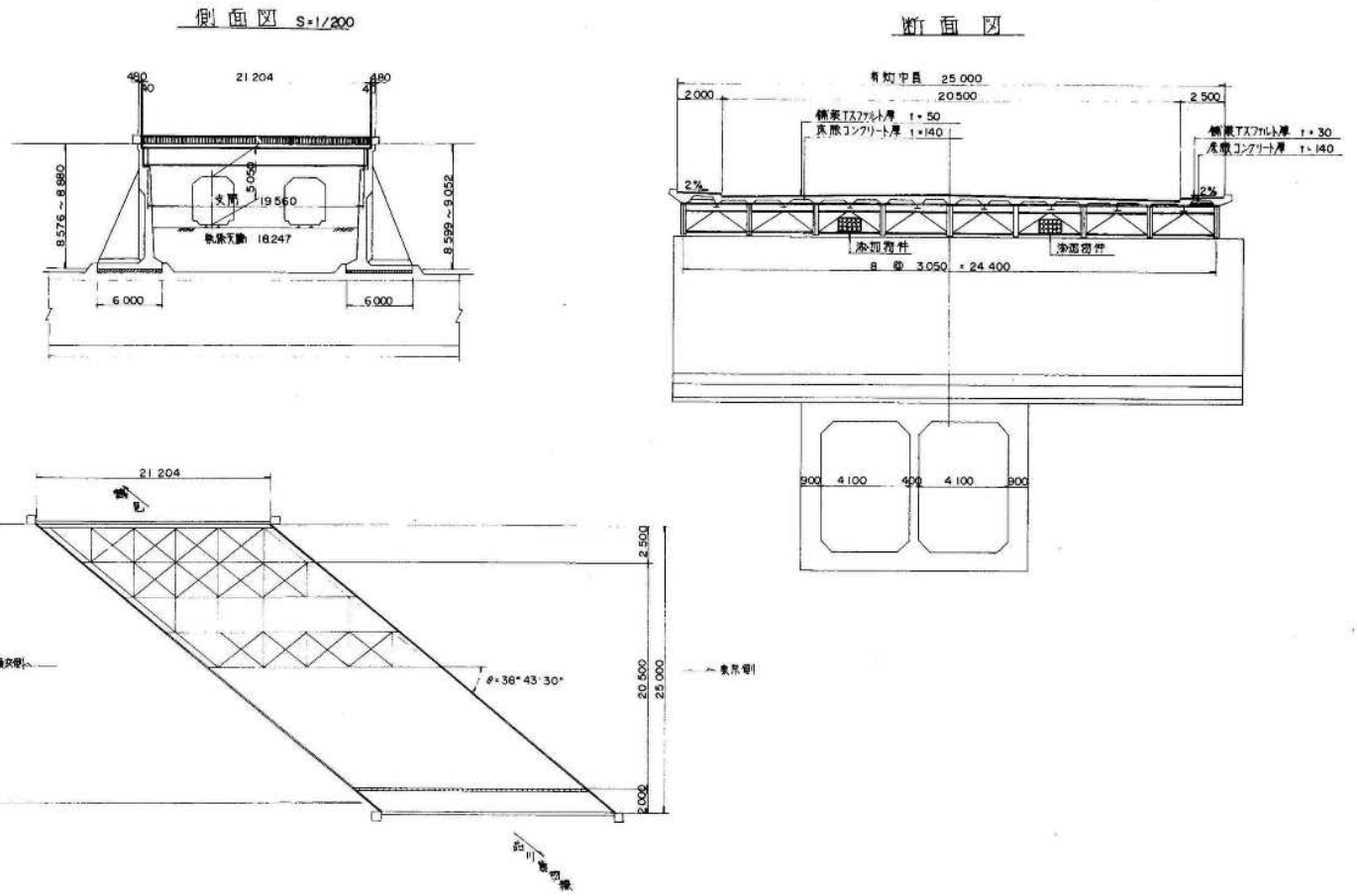
名称　：[redacted]	路線名　：　国道[redacted]号　　現旧区分：現道	整理番号１[redacted]
現在地(自)：[redacted]	距離標(自)：[redacted]	調製年月日　19950301
(至)：[redacted]	(至)：[redacted]	改訂年月日　20010331

【補修歴】

整理番号２	上・下部工区分	径間又は躯体番号	補修年月日	主な補修・改良内容	備考（原因等）
0001	上部工	10	19790330	床版全長打ち替え	床版打替
0002	上部工	10	19821223	落橋防止装置の設置	落橋防止（チェーン）
0003	上部工	10	19790330	上部構造横桁横構・対傾構取り替え	端部横桁取替
0004	下部工	A2	19790330	落橋防止装置の設置	沓座拡幅
0005	下部工	A1	19790330	落橋防止装置の設置	沓座拡幅
0006	上部工	10	19991130	舗装部分オーバレイ	車道部のみ施工、馬込舗装工事

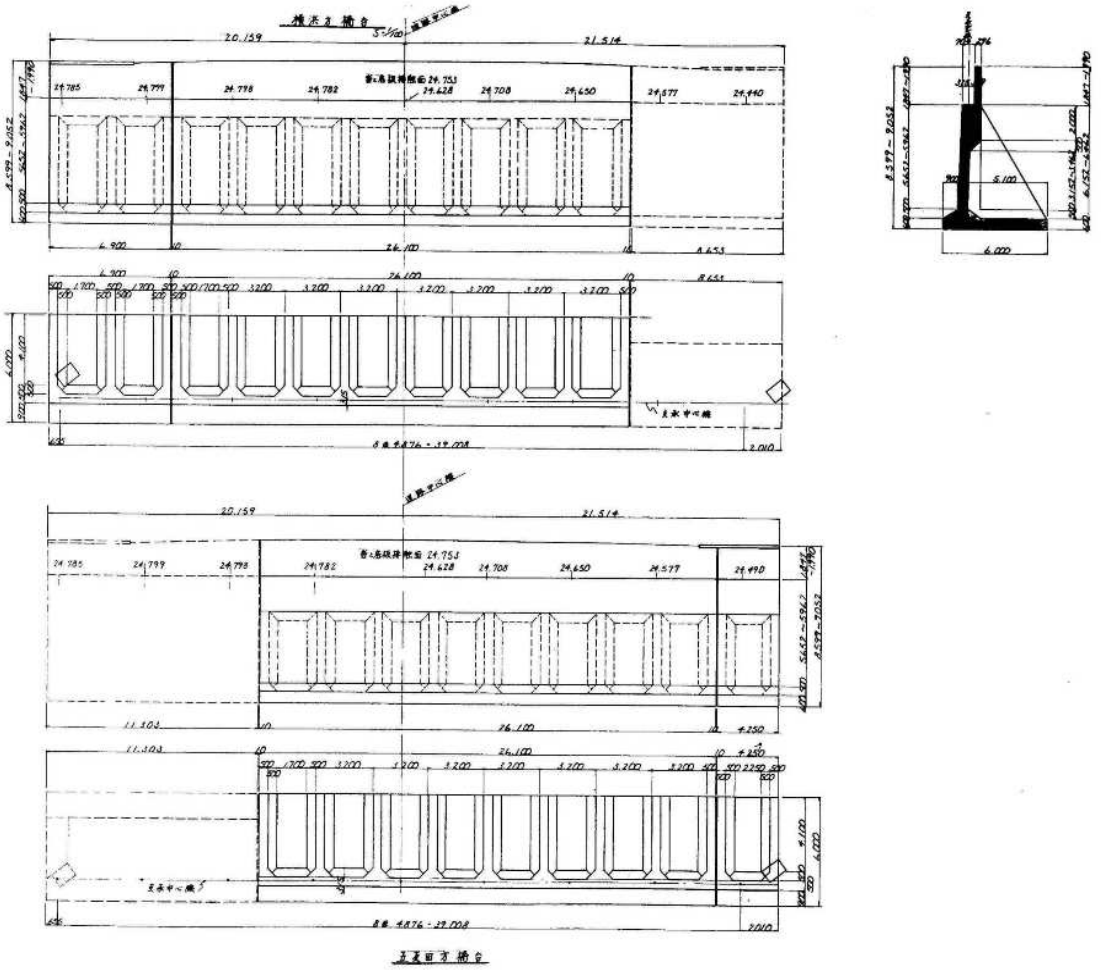
橋梁台帳

[名称]　　図面種別：　一般図　　整理番号1：



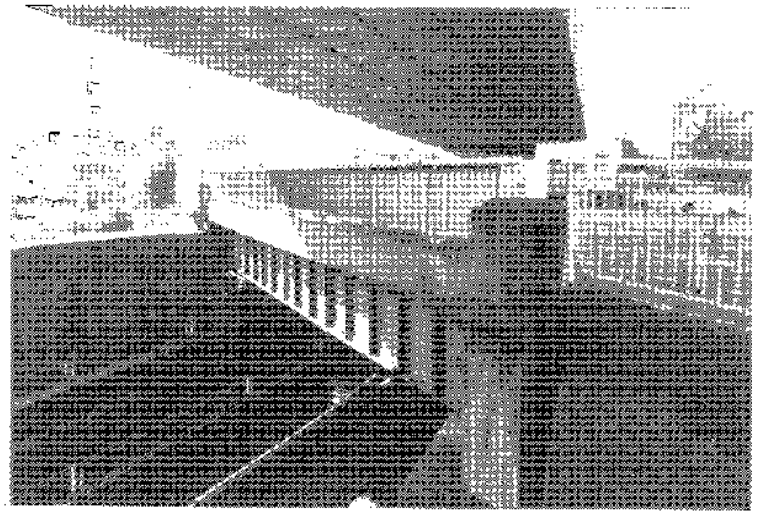
橋梁台帳

[名称]　　図面種別：　一般図　　整理番号1：



橋梁台帳

[名称]　　図面種別：　現況写真　　整理番号1：



橋梁台帳

[名称]　　図面種別：　現況写真　　整理番号1：

